

平成30年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成29年度対象)

平成30年11月

深谷市教育委員会

目 次

1	趣 旨	1 頁
2	点検評価の目的	1 頁
3	点検評価の対象及び方法	2 頁
4	深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5	点検評価表及び重点施策評価表	
	I 社会を生き抜く力の育成	
(1)	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	8 頁
(3)	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	12 頁
(4)	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	16 頁
(5)	高い志をもつキャリア教育の推進	18 頁
(6)	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	24 頁
	II たくましく生きるための心と体の育成	
(1)	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	28 頁
(2)	いじめ・不登校の防止	32 頁
(3)	生徒指導の充実	36 頁
(4)	人権を尊重した教育の推進	40 頁
(5)	健康の保持増進	44 頁
(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	46 頁
	III 信頼される学校教育の推進	
(1)	信頼される教職員の育成	50 頁
(2)	子どもたちの安心・安全の確保	54 頁
(3)	学習環境の整備・充実	58 頁
	IV 家庭・地域の教育力の向上	
(1)	家庭の教育力の向上	60 頁
(2)	地域の教育力の向上	62 頁

V	生涯を通じた学習活動の推進	
(1)	学習機会の提供と学習活動の支援	66頁
(2)	活動施設の整備・充実	68頁
(3)	図書館の整備・充実	70頁
VI	深谷らしい文化の創造	
(1)	渋沢栄一翁の顕彰	72頁
(2)	伝統文化の保存・継承と活用	76頁
(3)	文化・芸術活動の活性化	80頁
VII	生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
(1)	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	82頁
(2)	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	86頁
6	結びに	89頁

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、深谷市教育振興基本計画に位置づけられた25施策（中項目）を評価単位として、平成29年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成29年度の重点施策及び評価を示しています。

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課 （評価表取りまとめ課）	重点施策評価表 作成課		
			関連課		
I 社会を生き抜く力の育成	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	教育総務課 学校教育課	1
	未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	2
	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	3
	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	4
	高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	教育総務課 学校教育課	5
	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	6
II たくましく生きるための心と体の育成	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	7
	いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課	学校教育課	8
	生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課	学校教育課	9
	人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	10
	健康の保持増進	学校教育課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	11
	体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課 生涯学習 スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習 スポーツ振興課	12
III 信頼される学校教育の推進	信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	13
	子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課	学校教育課	14
	学習環境の整備・充実	教育総務課	教育施設課 学校教育課	教育施設課 学校教育課	15
IV 家庭・地域の教育力の向上	家庭の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	16
	地域の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課	17
V 生涯を通じた学習活動の推進	学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	18
	活動施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	19
	図書館の整備・充実	図書館	図書館	図書館	20
VI 深谷らしい文化の創造	洪沢栄一翁の顕彰	洪沢栄一記念館	洪沢栄一記念館	洪沢栄一記念館	21
	伝統文化の保存・継承と活用	文化振興課	文化振興課	文化振興課	22
	文化・芸術活動の活性化	文化振興課	文化振興課	文化振興課	23
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	24
	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課	25

5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標 I 社会を生き抜く力の育成		I - 1					
施策名	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させる。 ○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進する。 ○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組む。 						
施策に関連する 主な取組	○質の高い幼児教育の推進		○幼保一体化への対応				
	○幼稚園教員や保育士の資質向上						
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進						
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実						
指標名	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合						
指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%	98.6%	100%	100%	100%	100%
	現状値 (平成23年度)	89%		➡	目標値 (平成27年度)	95%	
平成29年度 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園教諭と保育士の交流 ○幼保小中連携の強化 ○就園前教育支援事業 ○ふかやこども園のモデル園の検証 						
平成29年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い幼児教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭研修会(4月・6月・8月・11月)を実施した。 ・幼稚園教諭保育参観研修(6月)を実施した。 ○幼稚園教諭や保育士の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭保育参観研修及び幼稚園教諭・保育士の交流会(6月)を実施した。 ○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会(10月・3月)を実施した。 ○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」…全体会2回と幼稚園会場27回(9園×3回)を開催した。 ○幼保一体化への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度4月からおかべ幼稚園で3歳児受け入れ、長時間預かり(平日・長期休業中)の保育サービスを実施した。 						
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の質の向上と安定化を図る。 ・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」の活動内容の充実と会場の整備を進める必要がある。 						
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てひろば」に参加した方の満足度は高い。未就園児を持つ保護者にとって、同年齢の子どもたちと安心して遊ばせたり、子育てに対する不安や悩みを話したり、横の繋がりを持つことができる場であるとともに、教育研究所の専門員や学校福祉相談員等により、子育てのアドバイスや心理面よりサポートを受けられる機会となっている。また、幼稚園就園を考えている保護者にとっては、園の様子が分かり、園児や教師との関わりを持つことができるため、参加者の半数以上が公立幼稚園へ入園した。 ・おかべ幼稚園で3歳児の受け入れ、長時間預かり(平日・長期休業中)を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 						
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標である子育てひろばの満足度は、平成26年度から連続で100%となっている。保護者のニーズに合った企画が考えられており、非常に高い成果が上げられている。 ・子育てひろばは、家庭で育てている子供が幼稚園を体験できる素晴らしい事業である。 ・幼児教育の充実に向けて、研修の実施などにより受け皿側の環境を整え、児童をスムーズに受け入れる体制を作してほしい。 						

重点施策評価表

重点施策名	幼稚園教諭と保育士の交流		担当課	学校教育課
概要	幼稚園教諭と保育士が研修会等で交流を深め、双方の資質向上を図る。			
平成29年度の実績	<p>○市立幼稚園教諭と市立保育園保育士の保育参観研修会及び交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象…正規職員 幼稚園教諭・保育士 ・日程…第1回 平成29年6月30日(金) 会 場:花園幼稚園 参加者:幼稚園教諭、保育士 <p>・内容…幼稚園教諭の保育を参観、参加し、幼稚園教育を体験をする。 園児降園後、参加者全員で本日の保育等について意見交換、協議等を行った。</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
	研修会及び交流会の実施回数	1回	実際に幼稚園の教育を参観、参加しながら就学前教育について共通理解することができた。幼稚園、保育園勤務状況が違うので、研修日の設定が困難である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	幼稚園、保育園の職員間での人事交流も進んでいる。同じ就学前の幼児を教育・保育をしていることから現状の様子や課題等を話し合い、共通理解を図ることにより小学校とのなめらかな接続を図るきっかけとすることができた。評価を「現状継続」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	幼保小中連携の強化		担当課	学校教育課
概要	幼保小のスムーズな連携を図るため、子育ての目安「3つのめばえ」を保育や教育の中で活用した。併せて中学校との連携を強化するため、中学校社会体験チャレンジ等を実施した。			
平成29年度の実績	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県から配布された「3つのめばえ」のポスターの掲示、懇談会等での「パンフレット」配布、また、遊びの中で「3つのめばえ」カルタを活用する等、日々の保育の中で「3つのめばえ」を意識しながら教育を行った。 ・小学校の教職員との研修会や連絡会等を行い、就学前までに身につけてほしいことや園での取組について協議する場を設けた。 ・地域の保育園や小・中学校で子ども同士の交流活動や職員間での連携を実施した。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		子育ての目安「3つのめばえ」の活用率	100%	市内のすべての公立幼稚園では、様々な「3つのめばえ」の資料等を活用し、教育活動に取り入れ、保護者への啓発も積極的に行っていた。
		地域の小学校と連携をしている数	10園	市内の公立幼稚園で、地域の小学校行事への参加、施設を使用しての交流や職員間での連携を進めていた。
	地域の保育園・中学校と連携をしている数	保育園 3園 中学校 3園	立地条件等により、小学校のように連携をしていくのは難しいが、できる園・学校と工夫をしながら連携をした。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	子育ての目安「3つのめばえ」の様々な資料を保育や教育の中で活用することにより、小学校入学までに身につけたいことを意識し、幼児期の教育と家庭の教育の充実を図り、小学校へのなめらかな接続につなげた。また、地域の幼稚園・小・中学校との連携による行事参加や教職員のコミュニケーションを図ることができたため、評価を「現状継続」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	就園前教育支援事業	担当課	学校教育課
概要	公立幼稚園の機能を活用し、全園で「子育てひろば」を開催し、子育て支援の充実を図る。		
平成29年度の実績	【内容】 深谷市在住の2歳から5歳までの未就園児親子を対象に地域の子育て支援の拠点となる公立幼稚園や公共施設(ピクチャータトル・公民館など)を活用し、親子で遊んだり、親子の交流を深めながら、子育ての不安や悩みの相談を行った。また、入園前に園児とふれあいながら幼稚園の生活を体験し、未就園児親子が安心して入園できるようにした。		
	【実績】 ・市内9園にて実施(明戸幼稚園は参加希望者1名だったため、第2希望の他の幼稚園での参加となった。) ・全体会2回 ・幼稚園会場27回(9園×3回) ・地域のボランティア(主任児童委員・保育ボランティア)の協力を得て、活動や援助がスムーズに行えた。		
担当課評価		実績値	指標別コメント
	各幼稚園会場における子育てひろば開催回数	27回(9園)	各園ごとに工夫した活動をすることができた。
	事業に満足した人の割合	100%	幼稚園で園児と一緒に遊んだり、親子で制作をしたり、幼稚園活動体験ができ、幼稚園を知る良い機会になった。
評価区分	評価コメント		
1	各幼稚園ごとに工夫を凝らした内容で参加保護者からも好評であった。地域のボランティア、各幼稚園共に、とても協力的に援助してくれ、引き続きお願いしていきたい。また、施設面等での安全の確保が難しくなり、実施内容を検討する必要もある。子育てひろばを通し、同年齢のお子さんを持つ保護者と交流し、横の繋がりがもてたり、子育ての講話を聞いたり、子育ての情報交換の場にもなっている。また、参加した多くの保護者は、公立幼稚園への入園を考えており、幼稚園の様子を知る良いきっかけとなり、就園にもつながっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	ふかやこども園のモデル園の検証	担当課	教育総務課 学校教育課
概要	ふかやこども園のモデル園の実践を通して、教育内容、保育サービス等の幼児教育の充実を図るとともに、利用状況を検証する。		
平成29年度の実績	<モデル園> みらい幼児園おかべ及びおかべ幼稚園		
	<開始時期> 平成29年度4月1日～		
担当課評価	<内容> ◎幼稚園における保育サービスの向上 (1)3歳児の受け入れの開始 20人 (2)平日の長時間預かりの拡大 15:00～16:30 (3)長期休業中の預かりの開始 夏季・冬季・学年末休業中		
		実績値	指標別コメント
	3歳児入園者数	20人	定員20人のところ、28人の希望者がいたため、公開抽選会を実施した。
一時預かり事業利用者数	281人	都合により利用したいと考えている保護者が多い。実際に利用する保護者は、予定していた数より少なかったが、後半は若干増えてきている。	
評価区分	評価コメント		
1	市内の公立幼稚園で初めての3歳児受け入れと長時間預かり(平日・長期休業中)に関心を持っている保護者も多い。関係職員も初めてのことで、戸惑いもあったようだが、職員間や教育委員会と連携を密にしながらか進めていくことができた。毎月の利用報告書を提出してもらっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



施策名		未来を切り拓くための確かな学力の育成						点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性		○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせる。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援する。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進				○きめ細やかで質の高い指導の充実			
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進				○教育研究所の資源活用			
		○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善							
		○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進							
指標名		全国学力・学習状況調査							
指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
全国学力・学習状況 調査における県の平均 正答率を上回る項目数 (比較4項目:小6(国語 A・B、算数A・B)、中3 (国語A・B、数学A・B))		小6	未実施	未実施	1	2	0	4	1
		中3	未実施	未実施	2	4	0	1	0
		現状値 (平成25年度)	小6(1) 中3(2)		➔	目標値 (平成29年度)	小6(4) 中3(4)		

平成29年度 重点施策	○中学生補習学習運営事業 ○小中一貫教育推進事業 ○学力向上推進事業	
平成29年度 実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全中学校(10校)で実施 参加者954名 ・延べ221名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生8名、中学生12名、合計20名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生37名、中学生16名、合計53名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施(中3を対象として、学習意欲の向上を図るため年1回実施) ・学力旬間の実施(各校において、学力向上を目的とした取組を実施) ・B問題プレチャレンジの実施(小5、中2を対象として、国語や算数・数学の記述的な問題への取組) ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 全小学校(19校)にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・学力向上を図るため、教員の授業改善に向けた取組を進める必要がある。	
評価コメント	・平成29年度は、深谷市チャレンジを全小・中学校で実施し、学習意欲に関するアンケート結果では「学習に対する意欲が高まった」と回答した生徒の割合が平成28年度と比較して数学が1.0%、英語が0.2%上昇し、数学85.6%、英語87.5%となり、意欲づけが一層進んだ。 ・全小学校(19校)にアシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートを配置したことにより、担任が児童と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・講師に経験者を活用した中学生補習学習を積極的に実施しており、評価できる。ステップアップレッスンは全体的な学力の発展につながるため、充実させてほしい。 ・中学生補習学習は、子供の実態に合わせて工夫を凝らしている素晴らしい取組である。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	中学生補習学習運営事業		担当課	学校教育課
概要	<p>【青洲学びの郷づくり】 学校総合支援員を増員して、ステップアップレッスンを拡充し、生徒の基礎学力の定着を図る。</p>			
平成29年度の実績	<p><補習学習の実施> ・学習に不安を感じていたり、経済的な理由で通塾をしていない生徒を主な対象として実施した。 ・中学生全学年を対象とし、学習につまづきを感じている生徒に早い段階から支援を行った。 ・学校の実態に合わせ、5月～2月までの期間、全中学校(10校)で週2回程度の補習学習を実施した。 ・全中学校で月2回程度、土曜日に補習学習を実施した。</p> <p><指導員の配置> ・全中学校に中学校学習支援員を1名ずつ配置し、主に国語・数学・英語の補習学習の指導を行った。 ・埼玉工業大学等の大学生が教育活動サポーターとして補習学習の支援を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	補習学習実施回数	延べ1,472回	昨年度全中学校で実施の拡充が図られ、昨年と同程度の実施回数を維持している。	
	教育活動サポーター派遣回数	延べ221回	埼玉工業大学等の協力を得て、各学校に多数の学生が派遣された。	
	深谷市内中学生の高等学校進学率	99.3%	昨年度の数値を上回り、進学率として高い数値となっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>・全中学校で積極的に補習学習を実施し、昨年同等の実施回数を維持することができた。 ・教育活動サポーターは多くの大学生に協力をいただいた。より多くの協力を得られるよう、大学との連携を図っているが、まだ不足している部分があり、他の協力依頼先を模索していく必要がある。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策評価表

重点施策名	小中一貫教育推進事業	担当課	学校教育課
概要	<p>9年間を見通したカリキュラムを作成し、授業実践を通して、指導方法の工夫・改善を図る。また、小学生と中学生の交流活動や、小・中学校の教師の授業参観などを推し進める。</p>		
平成29年度の実績	<p>【カリキュラム】 ○各中学校区において、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」をもとに、カリキュラムの研究を進めた。 ・小中一貫教育実施計画書を、各中学校区の小・中学校で協議し、作成した。</p> <p>○深谷市立教育研究所協力員の協力を得て、平成28年3月に小中一貫教育カリキュラム「つなぎ教材実践事例集」を作成し、全小・中学校(29校)に配布するとともに、教育委員会のホームページに掲載した。</p> <p>【児童生徒交流】 ○各中学校区において、学区内の小学6年生を対象とした部活動見学・体験の実施、吹奏楽部による小学校の訪問等、児童生徒交流を促進した。</p> <p>(例)・花園中学校区…小学校による「まちたんけん」での中学校訪問や中学校の立志式の見学、小学校の進路学習会としての中学生との交流会を開催した。 ・川本中学校区…中学生による小学校の運動会補助や親善運動会練習の指導、中学校の授業や部活動見学のための小学生の訪問、中学校の生徒会役員による小学校訪問などを実施した。</p> <p>【教員研修】 ○小中一貫教育担当者会議を開催した。(6月) ・小中一貫教育実施計画書をもとに、各中学校区での小中一貫教育の取組を共有した。 ・「つなぎ教材集」の活用について、研修を行った。</p> <p>○はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開する「こころざし深谷教師塾」を実施した。</p> <p>・実施校 …25校(学校訪問に合わせて実施) ・参加教員数…85名</p>		
	担当課評価	1	<p>川本中学校区3校で平成24年度・平成25年度に取り組んだ研究成果を、全中学校区に広めようと平成26年度からスタートした小中一貫教育推進事業であるが、学力の向上、不登校児童生徒数の減少など、着実な成果が見られるようになった。 引き続き、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」や「つなぎ教材集」、「つなぎ教材実践事例集」等を活用し、全中学校区において、カリキュラムの研究、児童生徒の交流、教員間の交流等を進めていきたい。</p>
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直し継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

重点施策評価表

重点施策名	学力向上推進事業	担当課	学校教育課	
概要	【青洲学びの郷づくり】深谷市チャレンジ(数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。			
平成29年度 の実績	<p>○深谷市チャレンジ 深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる生徒の育成を図ることを目的として実施した。 ※平成27年度までは、全小・中学校(29校)で実施。</p> <p>【対象学年・教科】 中学校第3学年・・・数学、英語</p> <p>【実施時期】 10月上旬</p> <p>【成果】 深谷市チャレンジ実施後の生徒アンケート結果より 学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合 数学 85.6%、英語 87.5%</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		深谷市チャレンジ実施校数	10校/10校	平成29年度は、全中学校で実施することができた。
		学習に対する意欲が高まったと回答した生徒の割合	数学 85.6% 英語 87.5%	実施後のアンケート結果より、85%以上の生徒が「学習に対する意欲が高まった」と回答した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	平成29年度は、全中学校で、深谷市チャレンジを実施することができた。 平成30年度は、数学検定、英語検定に繋げていくため、全中学校の第2学年で実施していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りをもち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養う。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実する。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行う。							
施策に関連する主な取組		○伝統と文化を尊重する教育の推進		○国際性を育む教育の推進					
		○小学校段階からの外国語活動の推進		○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実					
指標名		生徒の英語学習に対する積極的な態度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%	84.7%	86.4%	86.6%	87.4%	86.9%	
		現状値 (平成21年度)		中学生 76%		→ 目標値 (平成21年度)		中学生 85%	

平成29年度 重点施策	○国際化教育推進事業 ○小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進	
平成29年度 実績	○国際性を育む教育の推進 ・全小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・小学校3～6年生を対象として、1日中英語を使って各種活動に取り組む「英語王国」を実施し、2日間で延べ100名が参加した。 ○小学校段階からの外国語活動の推進 ・文部科学省から教育課程の特例(小学校3・4年生から外国語活動を行う)を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・小学校高学年の英語教科化に向け、拠点校を設け、指導力向上のための研修を実施した。意識調査において、「英語の学習が楽しい」と答えた児童が92%を超え、「授業中積極的に英語を使っている」生徒が86%を超えるなどの成果が明らかになった。 ・深谷市英語教育小中一貫CAN-DOリストを作成し、英語教育の充実を図った。 ○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(9名)を、小学校13校、中学校4校に配置した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	文部科学省が提唱するグローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づき、2020年を見据え、英語教育において多くの変革が求められている。特に小学校5・6年生での教科化や、それに伴う時数の確保、指導者の指導力向上、小中一貫のカリキュラムの構築など様々な課題が挙げられている。	
評価コメント	・全小・中学校にALTを配置したことで、小学校3年生～中学校3年生の児童生徒が毎週本物の英語に触れることができた。 ・教育課程の特例による外国語活動や英語教科化に向けた指導力向上の研修を行い、授業で積極的に英語を使う生徒の割合も増加した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に積極的に取り組み、教育課程の特例を受けたことも含めて素晴らしい実績がある。 ・小学校高学年の英語の教科化に向けて、スムーズに導入できるようにしてほしい。 ・外国語指導助手(ALT)と接する機会を増やし、会話能力に力を入れた指導をしてほしい。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業	担当課	学校教育課	
概要	【青洲学びの郷づくり】 全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語教育等の充実を図る。			
平成29年度 の実績	<p>○外国語指導助手の配置 【採用人数】 16名 【雇用形態】 労働派遣契約 【雇用期間】 H28年度より3ヶ月のクーリング期間がなくなり、1年を通じて雇用が可能となった</p> <p>【実施状況】 ○市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。</p> <p>○小学校3～6年生が、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。</p> <p>○本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が出てきている。</p> <p>○国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	85.5%	目標の授業時間を12,240時間としていたが、10,470時間の授業を行ったため、85.5%の達成割合となった。
	外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	92.8%	平均値が90%を超えるのは非常に高い数値であり、全国的なデータと比較しても、深谷市では英語好きの児童が非常に多いといえる。	
	評価区分	評価コメント		
担当課 評価	1	ALTによる授業を必要とする学級数(270学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、これまで以上の授業回数を全ての学校で実施することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術が上手くかみ合っていると見える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の素地を養い、国際性を育む。		
平成29年度の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行った。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 全小・中学校(29校)の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行った。</p> <p>○外国語教育推進委員会の実施 各小・中学校から1名の教師を委員として招集し、新学習指導要領への移行準備のための協議を行った。</p> <p>○指導法研修会の開催 ・全小学校教師の希望者を対象として、小学校外国語活動指導法研修会を1日実施した。(平成22年度からの継続事業)</p> <p>・市内を5ブロックに分けて拠点校を設け、授業研究会を実施した。小・中学校教師が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小・中連携を深めるとともに、指導法の改善を図った。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的としている。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成29年度は、小学生8名、中学生12名、合計20名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。3日間にわたって実施され、英語での体験学習、JAICAの見学、英語でのまとめと発表等を行っている。</p> <p>○英語王国の実施 体験を通して英語を楽しく学習することを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に2日間実施し、平成29年度は、延べ104名が参加した。料理やスポーツなどの体験を、すべて英語で行うなど、英語漬けの一日を過ごすことによって、日常生活の中で外国語を使用する機会としている。</p>		
	担当課評価	1	<p>ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られるとともに、外国語教育推進委員会の取組を踏まえ、新学習指導要領への移行に向けて、小学校の指導力向上の取組を進めている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、教育課程の編成や、小・中の接続において、適切な改善を加えられるようにしていく必要がある。</p>
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			



施策名		夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性		○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成する。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深める。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進する。						
施策に関連する主な取組		○科学技術教育の推進						
		○情報教育の推進						
		○環境教育の推進						
		○社会的課題に対応する教育の充実						
指標名		授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%	89.5%	89.2%	90.5%	92.2%	92.2%
		現状値 (平成27年度)	84%		➡		目標値 (平成29年度)	100%

平成29年度 重点施策	○小・中学校ICT整備事業 ○情報モラル教育の推進	
平成29年度 実績	○科学技術教育の推進 ・全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生を対象として、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。 ○情報教育の推進 ・小学校3校、中学校2校の教師指導用コンピュータの入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・小学校8校、中学校6校の児童生徒学習用コンピュータの入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○社会的課題に対応する教育の充実 ・校務支援システムを更新し、全ての小・中学校(29校)において指導要録と出席簿の電子化が定着し、全校で実施されている。 ・小・中学校の教職員を対象として、情報モラルに関する研修、タブレットの活用についての研修を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	文部科学省の教育の情報化ビジョン(平成23年4月)に示された、21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現および新学習指導要領に対応した機器の入替え・整備を今後も継続していく必要がある。	
評価コメント	・パソコンの整備については、見直しを行い、機器を有効に活用できるようハイブリッド型PCの導入を進めた。 ・研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面が増えており、小・中学校とも、およそ2時間に1回の割合でICTを活用した授業が行われている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・パソコンの整備率は、県と比較しても高い値を示しており、深谷市が早期から導入を図ってきた成果が上がっている。 ・情報モラルを守ることは社会全体の問題であり、生徒等が正しい知識を身に着けられる指導を行ってほしい。 ・低学年からパソコンの使用方法を学ぶことは、社会に生かせる能力を身に着ける良い取組である。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校ICT整備事業	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教師の負担軽減による子どもと向き合う時間を確保する。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校3校、中学校2校の教師指導用コンピュータの入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・小学校8校、中学校6校の児童生徒学習用コンピュータの入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・各小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を活用し、大雨等の緊急時に活用した。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 		
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント
	PC1台あたりの児童生徒数	5.1人/台	PC整備率は、県内40市の中でトップクラスの整備率となっている。県は8.9人/1台である。
	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	92.2%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、高い水準を維持している。県は77.0%である。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	ハイブリッド型PCなどの導入により、PCの活用幅が広がった。文科省の教育の情報化ビジョン(平成23年4月)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していくとともに、ネットワーク環境の更新や新学習指導要領に対応した整備を進めていく必要がある。	

重点施策名	情報モラル教育の推進	担当課	学校教育課
概要	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等に「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう情報モラルの研修を行った。 ・携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。 		
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。
	非行防止教室保護者参加人数	2,042人	平成28年度は2,265人であった。参加人数は減少したものの、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているので、成果につながっている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標 I 社会を生き抜く力の育成

I-5

施策名	高い志をもつキャリア教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。 ○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進する。							
施策に関連する 主な取組	○発達段階に応じたキャリア教育の充実 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ○職場体験活動の充実							
指標名	「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	未実施	未実施	76.6%	79.5%	78.1%	79.0%	81.4%
		現状値 (平成25年度)	中学生 76.6%	➡	目標値 (平成29年度)	中学生 80%		

平成29年度 重点施策	○小・中学校のキャリア教育の充実 ○校種間のなめらかな接続 ○奨学資金支給事業 ○修学奨励資金支給事業 ○体験を重視したキャリア教育の推進	
平成29年度 実績	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・全小学校において、4年生を対象に1/2成人式を実施し、中学2年生での立志式等へとつなげた。 ・中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」等、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。) ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校において2年生を対象に、事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それぞれの取組に結びつけられるよう意識した指導が必要である。小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、今後更なる工夫をしていくことが必要である。 ・社会体験チャレンジにおいては、多様性のある事業所の確保が課題となっている。	
評価コメント	・全小・中学校(29校)において、小学校4年生で1/2成人式、中学校2年生で立志式等を実施できた。 ・中学生社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)では、推進委員会での情報交換や深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、より円滑に生徒の希望に応じた職場体験を実施することができた。平成29年度は377箇所の受け入れ事業所に協力をいただき、計画通り安定した取組とすることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・小学校から中学校への接続を考えたキャリア教育は、段階に応じてスムーズに運営されており、非常に工夫された取組である。併せて、中高の連携にも更に力を入れてほしい。 ・職場体験活動は、企業の応援が必要不可欠であり、子供の希望職種の調整を行う必要などもあって苦勞が絶えないと思う。職場での経験が将来に繋がり、子供だけでなく企業にとってもプラスになる活動なので継続してほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】 小学校における1/2成人式、中学校における立志式等を通して、児童生徒の夢やこころざしを育む。			
平成29年度の実績	<p>〈発達の段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①全小学校において、4年生を対象に1/2成人式を実施した。</p> <p>②産業祭に参加(深谷小、豊里小、深谷中、上柴中)</p> <p>③中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。</p> <p>②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小学校における1/2成人式の実施率	100%	小学校全校で実施し、自己の成長について見つめ直す機会とすることができた。	
中学校における立志式の実施率	100%	中学校全校で実施し、将来について考えを深め、自立・自律を促す機会となった。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	1/2成人式、立志式を全小・中学校で実施し、自己の夢やその実現に向けてのこころざしを持たせるための機会とすることができた。また、中高連絡協議会の実施により、生徒一人一人に適した進路指導をするための一助とすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	校種間のなめらかな接続		担当課	学校教育課												
概要	<p>全中学校区で小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消を図るとともに、中高連絡協議会を実施し、中高の連携を図る。また、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼保小中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。</p>															
平成29年度の実績	<p><小・中・高における「なめらかな接続」の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全中学校区において、9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の実施（小中一貫教育推進事業の実施【再掲】） <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの研究 ・児童生徒の交流 ・教員間の交流 ・小中連携シートの活用 等 ○「中高連絡協議会」の開催（4回） <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。（対象：各中学校長、各高等学校長を基本とする） ・進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。 ○小学校教科支援エキスパート（全小学校）、小学校理科支援員（全小学校）の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における授業の一部で専科指導を実施することにより、小学校（学級担任制）から中学校（教科担任制）への「なめらかな接続」を図った。 <p><幼保小中における「なめらかな接続」の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中連携推進協議会の開催（2回） <ul style="list-style-type: none"> 中学校区10ブロックに分かれて分科会を行い、幼保小中連携について協議した。（対象：各幼稚園・保育園の園長又は主任、各小・中学校の管理職等） <table border="1" data-bbox="331 1041 1439 1464"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校不登校生徒の割合</td> <td>1.56%</td> <td>平成28年度の割合(1.20%)と比較すると、増加している。</td> </tr> <tr> <td>中高連絡協議会の開催回数</td> <td>4回</td> <td>なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。(1回目…6・7月、2回目…10月)</td> </tr> <tr> <td>幼保小中連携協議会の開催回数</td> <td>2回</td> <td>なめらかな接続を推進するため、年度の前半(夏季休業中)と後半(2月)に協議会を実施した。</td> </tr> </tbody> </table>					実績値	指標別コメント	中学校不登校生徒の割合	1.56%	平成28年度の割合(1.20%)と比較すると、増加している。	中高連絡協議会の開催回数	4回	なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。(1回目…6・7月、2回目…10月)	幼保小中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続を推進するため、年度の前半(夏季休業中)と後半(2月)に協議会を実施した。
	実績値	指標別コメント														
中学校不登校生徒の割合	1.56%	平成28年度の割合(1.20%)と比較すると、増加している。														
中高連絡協議会の開催回数	4回	なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。(1回目…6・7月、2回目…10月)														
幼保小中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続を推進するため、年度の前半(夏季休業中)と後半(2月)に協議会を実施した。														
担当課評価	評価区分 1	評価コメント 幼保小中高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減や、中1ギャップの解消などを図っていく必要がある。また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や、本年度の入試状況等についての共通理解を図ることができた。さらに、幼保小中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について、共通理解を図ることができた。														
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）																

重点施策評価表

重点施策名	奨学資金支給事業		担当課	教育総務課
概要	進学の意志と能力を有しながら経済的な理由により修学が困難な市民に対し、高等学校等への学資金(高等学校授業料相当額)を給与する。			
平成29年度 の実績	・平成29年度 認定者数 28人(うち新規認定9人) 支給額 3,286,800円			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	新規認定者数	9人	新規認定者は平成28年度の18人から9人減少し、9人になった。	
	支給対象者数	28人	支給対象者総数は平成28年度の33人から5人減少し、28人になった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	国の制度による高等学校の授業料無償など、修学に対する経済的負担は軽減されているが、それでもなお経済的理由により修学が困難な者への支援制度として継続していくことを前提に、支給金額や手続き方法の見直しを検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	修学奨励資金支給事業		担当課	教育総務課
概要	家庭環境の急変(生計維持者の死亡、疾病、事故、災害等)により、高等学校等の就学が困難になった者に対し、5万円を給与する。			
平成29年度 の実績	・平成29年度 認定者数 1人 支給額 50,000円			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	認定者数	1人	認定者は平成28年度の0人から1人増加し、1人になった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	家庭環境の急変により、修学が困難な者への支援制度として継続していくことを前提に、支給金額や手続き方法の見直しを検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	体験を重視したキャリア教育の推進		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】 職業にふれる体験活動を通して、児童生徒に夢をもたせ、社会的・職業的自立に向けた力を育てる。			
平成29年度 の実績	〈体験活動の充実〉			
	①中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校において2年生を対象に、事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる社会体験チャレンジ推進委員会を2回実施した。)			
	②小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	社会体験チャレンジの参加人数	1,279人	中学2年生全員を対象として実施した。	
社会体験チャレンジの参加割合	98.2%	中学2年生1,303人中の1,279人が参加することができた。		
協力事業所数	377事業所	事業所数も毎年安定して協力していただいている。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達の段階に応じた取組がなされた。 中学生で行う社会体験チャレンジは、深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、多様な職場体験を行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整える。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めていく。							
施策に関連する 主な取組	○特別支援教育体制の整備・充実			○他機関との連携				
	○就学支援・相談の充実			○支援籍学習の推進				
	○特別支援教育の視点に立った指導の充実			○教育研究所の機能の充実				
	○特別支援補助員の活用							
指標名	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率	52.1%	57.7%	64.8%	80.0%	80.0%	82.5%	76.5%
		現状値 (平成23年度)	52%		➡	目標値 (平成29年度)	100%	

平成29年度 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実 ○早期からの就学支援・就学相談の充実 ○支援籍学習推進事業
平成29年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ○就学支援・相談の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・就学支援委員会を4回、小委員会を2回実施した。 ・巡回相談を58回(幼稚園10回、小学校34回、中学校14回)、学級学校支援相談を8回実施した。 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター合同研修会(通常の学級担任研修会を含む)を2回、巡回相談員研修会を1回実施した。 ・特別支援教育担当者研修会を1回、特別支援教育担当者経験3年以下研修会を2回実施した。 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会を1回実施した。 ○教育・福祉や医療機関・療育機関等との連携・・・68回実施した。 ○支援籍学習の推進・・・通常学級支援籍学習は40名、特別支援学級支援籍学習は14名の参加があった。 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査を115件実施した。

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
------	----------	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率については、昨年度に比べ6ポイント低下したが、作成率を向上させ確実に次学年への引き継ぎや合理的配慮の提供を行い、教職員間で共通理解を図れるようにすることが重要である。 ・障害のある児童生徒一人一人が、小学校から中学校、中学校から高校にそれぞれなめらかに移行できるよう、支援をさらに充実させるとともに、通常の学級担任等の指導力の向上を図ることが必要である。
----	---

評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育的ニーズに合わせた多様な学びの場(支援籍学習や特別支援学級の弾力的な運用、通級指導教室など)を活用することにより、子ども一人一人の教育的ニーズに合った教育的支援に取り組む体制が整ってきている。 ・幼稚園及び保育園への巡回相談や就学前相談を随時実施し、また、関係諸機関と緊密に連携することで、課題を持つ子供たちへの早期支援に繋げることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
--------	--

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小・中学校の教員の特別支援教育に関する指導力が求められているので、地道な努力を継続してほしい。 ・県立特別支援学校と市立小・中学校の教員同士の交流を行い、研修内容を向上させてほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実	担当課	学校教育課
概要	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の教育支援計画や教材教具等の整備の充実を目指します。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級及び通常の学級に在籍する児童生徒で特別の教育的支援を必要とする児童生徒の教育支援計画等の作成をした。 ・幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、幼稚園、小・中学校内での支援を行う巡回相談を実施した。 ・特別な教育的支援の必要な児童生徒に対し、各小・中学校における特別支援学級への弾力的な運用の活用をした。 ・教職員研修を次のとおり実施した。 特別支援教育コーディネーター等合同研修会 2回 特別支援教育担当者研修会 2回 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	通常の学級で障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率	76.5%	通常の学級に在籍している障害を持った児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた教育指導計画を作成する。
	巡回相談実施回数(幼・小・中の合計)	58回	幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備する。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	巡回相談や教職員研修を行い、発達障害等を理解するとともに、支援方法を習得した。指導力の向上に生かし、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実が図られている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策評価表

重点施策名	早期からの就学支援・就学相談の充実		担当課	学校教育課
概要	<p>特別支援教育の早期支援に向け、研究主題を「教育・福祉の連携を生かした早期からの教育相談・支援体制づくり」とし、ヨコ(教育・福祉)とタテ(幼保小中高)の連携を生かした0歳から15歳までの子供を一貫して育てる支援体制づくりを行う。</p>			
平成29年度 の実績	<p>○ヨコ(教育・福祉)の連携として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・福祉連携推進委員会による各関係機関との連携を行った。 ・就学支援の充実や就学を迎える保護者の集い、保護者支援の充実(保護者講演会・教育相談)、深谷市の支援マップの作成及びサポート手帳の活用等を行った。 <p>○タテ(幼保小中高)の連携として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会の開催、小中連携巡回相談、ケース会議の充実及び中高連絡協議会等を開催した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	就学を迎える保護者の集い参加者数	37名	35名のうち23名が個別相談へとつながった。23名については、就学が決まるまで丁寧に面談を行った。	
	幼保小中連絡協議会開催回数	2回	連絡協議会をきっかけに幼保小中間の情報交換が行われ、学校見学にもつながった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>早期からの子供支援を行うためには、就学前から本人・保護者を取り巻く幼稚園・小・中学校・各関係機関等との連携が基盤となっている。ヨコとタテの連携を強化するとともに、子供の教育的ニーズを把握し、寄り添いながら支援を行うことができた。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策評価表

重点施策名	支援籍学習推進事業		担当課	学校教育課
概要	インクルーシブ教育(障害のある人とない人が同じ場で学ぶ)を推進し、子供の教育的ニーズに合わせた教育支援を行うため、多様な学びの場として、特別支援学校や通常の学級での学習を推進する。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校支援籍 ・小・中学校の児童生徒が、特別支援学校の学級に入り、学習を行った。 ○通常学級支援籍 ・特別支援学校の児童生徒が、通常の学級に入り、学習を行った。 ○特別支援学校の参加校 ・深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	特別支援学校支援籍者数	14名	特別支援学校で学習を行った、通常学級の児童生徒数は、前年度は16名であったが、今年度は14名であった。	
	通常学級支援籍者数	40名	通常学級で学習を行った、特別支援学校の児童生徒数は、前年度は48名であったが、今年度は40名であった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	多様な学びの場を提供することにより、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進						点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性		○「青淵学びの郷づくり」を推進する。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進する。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進する。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進する。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進(再掲)				○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲)			
		○道徳教育の推進							
		○体験活動の推進							
		○読書活動の推進							
指標名		「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (一)	1,349作品 (130)	1,342作品 (149)	1,264作品 (114)	862作品 (80)	837作品 (88)	1,169作品 (67)	
		現状値 (平成23年度)			589作品	➡		目標値 (平成26年度)	1,000作品

平成29年度 重点施策	○深谷の子「6つの誓い」の活用 ○「深谷こころざし読本」及び「ふるさと先生」の活用 ○「まごころ訪問」等の実施 ○子ども読書活動の推進
平成29年度 実績	○「青淵・学びの郷づくり」の推進(再掲) ・「青淵・学びの郷づくり」心の教育推進協議会を実施した。(平成29年12月21日、平成30年2月1日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,367点)及び表彰、作品集(第10集)の作成及び配布を行った。 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一こころざし読本」又は「深谷こころざし読本」を、全小・中学校で活用した。 ・全小・中学校に「ふるさと先生」を派遣した。(小学校25回、中学校23回) ・「青淵・こころざし歳時記」を小学校1年生及び4年生、中学校1年生に配布し、朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・「深谷こころざし読本」を小学校4～6年生に配布し、道徳の時間を中心に各教育活動で活用した。 ・「青淵・こころざし歳時記」及び「深谷こころざし読本」を、図書館、公民館等公共施設に設置するとともに、HPに掲載した。 ○まごころ訪問の実施 ・全小学校でまごころ訪問を実施した。 ○読書活動の推進 ・全小・中学校(29校)に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校52.6冊、中学校7.8冊。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲) ・小・中学校合わせて144項目中、143項目において達成率80%を上回った。 80%以下 中2「ふるさと深谷のよさが書えるか。」(74%)
総合評価	A ※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」における、一般(高校生、大学生を除く)の応募数を増やすことが必要である。 ・子供たちの心の教育を充実させるために、「こころざし読本」及び「ふるさと先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。
評価コメント	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「こころざし読本」及び「ふるさと先生」の積極的な活用のほか、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的にを行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。 ・成果指標については、目標値を超えることができたが、今後は、高校生や大学生を除いた一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。

意見・提言	・感謝の気持ちは社会を明るくする活動の第一歩なので、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」の活動を広めていってほしい。 ・「まごころ訪問」は、子供たちと高齢者が交流できる良い取組であり、手紙を学校だよりに掲載するなどのフィードバックも行われている。高齢者も喜んでいたので継続してほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	深谷の子「6つの誓い」の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、小・中学校の園児・児童・生徒には前年までに配布済みになっているので、各幼稚園の4歳児、小学1年生にチラシを配布し、各家庭に周知した。市役所、公民館及び総合支所にチラシを配布した。 ・深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小・中学校のホームページでも随時取組を紹介した。 ・市内の各種団体(子どもサポート市民会議、深谷市PTA連合会等)の集会でチラシを配布し取組を紹介した。 ・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	チラシの配布	100% (39/39)	市内各幼稚園(4歳児)、小学校(1年生)の園児・児童に配布した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市内各小・中学校での実践を、深谷市教育委員会や各校のホームページで紹介するなど、各学校の取組を支援することができた。各種団体の集会時に、チラシを配布するなど、市民へも知らせることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	「深谷こころざし読本」及び「ふるさと先生」の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、地域人材を活用したふるさと先生(市民との協働)の派遣を推進する。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一記念館資料解説員をはじめ、元教育長や元校長等を講師として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道徳教育の推進と道徳の時間の充実が図れた。 ・「深谷こころざし読本」の積極的な活用を図れた。 ・市内の全小・中学校(29校)に「ふるさと先生」を派遣した。(小学校25回、中学校23回) ・深谷市道徳教育研修会を6月14日に実施し、「深谷こころざし読本」の効果的な活用を図った事例を示した。(小学校19名、中学校10名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「ふるさと先生」活用率	小学校100% 中学校100%	全小・中学校に派遣できた。	
	「深谷こころざし読本」年間指導計画への位置づけ	小学校100% 中学校100%	全小・中学校で計画し実施している。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校(29校)へ「ふるさと先生」を派遣することで、「深谷こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	「まごころ訪問」等の実施		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】児童が育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てる。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を大切にする思いやりの心を育み、地域の絆を深めるために、市の65歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯に花と手紙を届けた。 ・全小学校(19校)で実施できた。(合計1,909世帯) 			
	【実施内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、市教育委員会から配布された花の苗を鉢に植え替え、一定期間育て、一人暮らしの高齢者に向けた手紙を書く。 ・児童が、各地区で行われる民生委員・児童委員の定例会に出向き、民生委員・児童委員に花と手紙を渡す。 ・民生委員・児童委員が、一人暮らしの高齢者のお宅への訪問時に、児童から預かった花と手紙を届けた。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		「まごころ訪問」利用率	小学校100%	全小学校でまごころ訪問を実施した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度から、全小学校(19校)でまごころ訪問を実施している。子供たちが育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	子ども読書活動の推進	担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】「深谷市子ども読書活動推進計画」のもと、学校図書館の充実を図り、児童生徒が読書活動に親しめるようにする。		
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校(29校)へ図書館補助員を配置した。 ・学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を図った。また、中学校区毎の意見交換を2回実施し、小・中の連携が図れた。(第1回平成29年10月31日。第2回平成30年3月23日。) ・児童生徒への朝読書の実施や読書月間・旬間・週間の設定、学年ごとに年間目標冊数の設定等の読書活動の充実等を図った。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	市臨時職員(図書館補助員)の配置	100% (29校/29校)	全小・中学校に配置した。
	一人当たりの年間図書貸出し数 小学校	52.6冊	前年度より増加した。
一人当たりの年間図書貸出し数 中学校	7.8冊	前年度より増加した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行うことができた。また、そのことにより、一人当たりの貸出し数も、小・中学校ともに前年度より増やすことができた。今後も現状を継続していきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		いじめ・不登校の防止				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行う。また、教育相談活動を推進する。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進する。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努める。							
施策に関連する主な取組		○いじめ対策の推進 ○教育相談活動の推進 ○不登校対策の推進 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)							
指標名		不登校児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上欠席)児童生徒の100人当たりの割合	深谷市	2.4%	2.1%	1.6%	1.2%	1.3%	1.2%	1.6%
		埼玉県	2.4%	2.4%	2.4%	2.3%	2.4%	2.4%	
		現状値 (平成29年度)	中学生2.4% (深谷市)			➔	目標値 (平成29年度)	中学生2.2% (深谷市)	

平成29年度 重点施策	○いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実 ○総合的な不登校対策の推進	
平成29年度 実績	○いじめ対策の推進 ・深谷市いじめ問題対策連絡協議会と、深谷市いじめ問題専門委員会を開催した。 ・全中学校(10校)に学校総合支援員を配置した。 ・小学校2校、中学校9校にスクールライフサポーターを配置した。 ・いじめ状況等の調査の実施及び見届け(全小・中学校、毎月)を行った。 ○教育相談活動の推進 ・「深谷イーネット」専門相談ダイヤルを開設した。 ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測り、いじめ・不登校の未然防止につなげた。 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)と、小1問題対応非常勤講師(小学校7校)を配置した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲) ・「中1ギャップ」対応のための小学校教科支援エキスパート(全小学校)と、小学校理科支援員(全小学校)を配置した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	いじめ認知件数は増加傾向にあり、いじめの早期発見、早期対応がより重要となる。生徒指導体制、教育相談体制の充実を図り、学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携して取り組んでいく必要がある。	
評価コメント	・いじめ対策については、深谷市いじめ問題対策連絡協議会や深谷市いじめ問題専門委員会を開催するなど、多くの取組を行った。 ・不登校対策については、不登校児童生徒の割合が昨年度より増加しているが、県平均を下回っている。今後割合を減少させることが課題となってくる。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・いじめを注視する意識が社会全体に浸透してきているので、初期対応ができるように今後も根気よく続けてほしい。 ・学校に居場所があることが、不登校やいじめの減少に繋がると思うので、より良い環境作りに取り組んでほしい。 ・ネットトラブルや非行の防止のため、時間制限を設けるなど、子供のスマートフォンの使用を保護者が見守ってほしい。 ・不登校の状況は昔より改善されてきているが、家庭内の問題に起因する場合もあるので家庭の状況の把握にも努めてほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実		担当課	学校教育課
概要	いじめ防止対策推進法第14条に基づき、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、いじめを未然に防止し、早期発見、迅速に対応するための方策を協議する。			
平成29年度の実績	<p>○平成29年度開催日程 【7月14日】第1回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。 【12月20日】第2回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。</p> <p>○平成29年度深谷市内のいじめ認知件数は、小学校73件、中学校54件、計127件であった。認知件数は昨年度と変わらないが、平成27年度と比較すると約3倍に増えている。これは、「いじめの定義」の周知や実態把握のためのアンケート回数の増加、教師のいじめ認知への意識の向上により認知数が増えたと考えられる。</p> <p>○平成30年1月に深谷市いじめ防止基本方針を改定し、市内全ての小・中学校に配付した。各学校においても、学校いじめ防止基本方針を改定し、公開している。また、各学校でアンケート調査を行うことにより、いじめを未然に防止し、早期に発見することができた。</p> <p>○深谷市では、ネットトラブルやネットいじめ等を防ぐため、子供たちが中心となり、学校、家庭、地域が一体となって、インターネット使用のルール「安心ふっかネット」に取り組んだ。また、各学校ではPTA総会や学級懇談会等で説明したり、リーフレットを各家庭に配付したりして、周知・啓発に努めた。</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
	いじめ認知件数	127件	いじめ定義やアンケート回数の増加、いじめ認知への意識の向上により、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市いじめ問題対策連絡協議会により、学校と関係機関が連携していじめ問題に対応できた。国の「いじめ防止のための基本方針」の改定に伴う、深谷市いじめ防止基本方針の改定において、各関係者からの意見の吸い上げの機会として、機能した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	総合的な不登校対策の推進	担当課	学校教育課	
概要	小中一貫教育を推進するとともに、学校総合支援員、教科支援エキスパート、アシスタントティーチャーなどを配置し、不登校の未然防止、早期対応を図る。			
平成29年度の実績	<p>【学校総合支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全中学校(10校)に配置し、不登校などに係る家庭訪問や、学校運営上の様々な問題に対応した。 <p>【スクールライフサポーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校11校に配置し、不登校など児童生徒の個々に応じた学校生活全般に関する支援を行った。 <p>【小学校教科支援エキスパート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校(19校)に配置し、専門的な指導を充実させるとともに、小・中のなめらかな接続に対応し、中1ギャップを軽減した。 <p>【アシスタントティーチャー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校(19校)に配置し、教科における少人数指導や低学年(1・2年生)の生活指導の支援を行い、個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図った。 <p>【不登校対策小中連携シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における児童の出席状況等を、中学校が適切に把握するための不登校の未然防止シートを活用し、不登校の未然防止を図った。 <p>【アセス(学校適応感尺度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測るためのソフトであるアセスを、年2回程度全小・中学校(29校)で実施し、不登校の未然防止を図った。 <p>【適応指導教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校などの理由により、在籍する学校を長期間にわたり欠席している児童生徒に対して、基礎学力を補充し、社会性を身につけさせ、登校しようとする意欲を喚起した。平成29年度は、14人が通級し、部分復帰も含め12名が学校復帰した。 <p>【教育相談員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校等の児童生徒に係る心の問題を解消するため、全中学校に配置した。相談室は、不登校傾向の児童生徒の居場所になることもあり、保護者の相談窓口としても機能した。 <p>【スクールカウンセラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校等の児童生徒が抱える問題の解決や軽減のために、心の専門家として教職員へのコンサルテーションや、児童生徒、保護者へのカウンセリング等の活動を行った。 <p>【スクールソーシャルワーカー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、不登校など児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒に支援を行った。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		不登校児童生徒数	61人	不登校児童生徒数は、ある程度の人数で落ち着いていたが、平成29年度は増加した。県や国の出現率と比較すると落ち着いてはいるが、今後も支援が必要である。
		小学校不登校児童の割合	0.05%	不登校児童の割合は、前年度とほぼ同じである。
		中学校不登校生徒の割合	1.56%	平成28年度の割合(1.22%)と比較すると、増加傾向にある。
	担当課評価	評価区分	評価コメント	
		1	深谷市の総合的な不登校対策の取組により、不登校児童生徒数は10年間で減少傾向にある。今後も、不登校ゼロを目指して、取り組んでいきたい。	
	評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



施策名 生徒指導の充実		点検評価表 作成課		学校教育課				
施策の方向性		○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進する。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行う。						
施策に関連する主な取組		○生徒指導体制の充実						
		○非行・問題行動の防止						
指標名		児童生徒の暴力行為の発生件数						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	小・中学校における児童生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	16件	19件	8件	7件	11件	4件
		現状値 (平成23年度)	30件			目標値 (平成27年度)	25件	

平成29年度重点施策	○生徒指導に係る学校訪問の充実 ○関係機関との連携 ○スクールライフサポーターの配置	
平成29年度実績	○生徒指導体制の充実 ・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携及び小学校と中学校の連携を図った。 ・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。 ・ICT支援員が週1日、ネットパトロールを実施した。 ・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校6校に配置した。 ○非行・問題行動の防止 ・埼玉県警察に要請し、警察OBをスクールサポーター(非常勤・週2日・6時間)として市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。 ・市費スクールライフサポーター(SLS)を小・中学校10校に配置(配置要請)し、積極的な児童生徒指導や問題行動の未然防止を図った。 ・全小・中学校(29校)で非行防止教室を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	非行問題行動は減少傾向にあるが、個々に問題を抱えている児童生徒や複雑な家庭は多いので、特別支援教育の視点での対応と学校だけでなく関係諸機関との連携が一層必要である。	
評価コメント	・生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行うことができた。 ・成果指標である、小・中学校における児童生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数は前年度に比べて7件減少し、目標値を大幅に下回っている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標である児童生徒の暴力行為の発生件数は、平成23年度の30件から順調に減少しており、様々な工夫や努力をしていることが読み取れる。また、児童生徒と保護者と教員の信頼関係が構築されていることが値に表れている。 ・スクールライフサポーターが市内全中学校に導入され、大いに力になっている。 ・未然防止が非常に重要なので、民生委員や主任児童委員との連携を密に取ってほしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	生徒指導に係る学校訪問の充実		担当課	学校教育課
概要	いじめ・不登校問題を始め、児童生徒による非行・問題行動へ対応するため、「生徒指導に係る学校訪問」を実施し、市内全小・中学校における生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における生徒指導のより一層の充実を支援する。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は、前期(6月から7月)に、小学校3校、中学校10校、計13校を訪問した。後期(10月から12月)は、小学校16校、中学校4校、計20校を訪問した。 北部教育事務所指導主事や北部教育事務所いじめ・非行防止支援員等4名が児童生徒指導の現状や家庭・地域、関係諸機関との連携等について、各学校を訪問し、協議や授業参観等を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	4件	平成20年度には68件あった暴力行為(対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物破損)の総数が、年々減少している。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市内小・中学校における暴力行為の発生件数は、減少傾向にある。非行問題行動も減少しており、生徒指導に係る学校訪問の成果が表れている。今後も引き続き実施し、生徒指導の充実に努めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	関係機関との連携		担当課	学校教育課
概要	生徒指導推進協議会や寄居警察署管内学校警察連絡協議会を開催し、警察との情報共有、行動連携に努める。 小・中学校の連携や市内私立・県立高等学校との連携を密にして情報収集や行動連携を図る。			
平成29年度の実績	○生徒指導推進協議会 ・年間5回の協議会を実施 ・内容…深谷警察生活安全課課長講演、夏季休業中の生徒指導、小・中・高・特支の連携・協力 ○寄居警察署管内学校警察連絡協議会 ・年間5回の協議会を実施 ・内容…寄居警察署生活安全課係長講演、夏季休業中の情報交換、各校の現状と地域の情報交換			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	連携会議参加数10回	10回	警察等との連携のための協議会に10回参加し、情報共有や共通実践を行い、連携を強化することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校と警察とが連携し、情報を共有することで、非行問題の未然防止や早期対応等に努めることができた。また、市内の小・中・高の学校が情報共有することで、指導の共通実践ができ、足並みをそろえた指導に繋がっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	スクールライフサポーターの配置		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。			
平成29年度 の実績	○スクールライフサポーターの配置			
	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の発生を未然に防止し、児童生徒指導の充実に資するため、スクールライフサポーターを小・中学校10校に配置した。 配置については、小学校1校(八基)、中学校9校(幡羅、深谷、藤沢、南、豊里、上柴、岡部、川本、花園)の計10校であった。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
スクールライフサポーターの配置校	10校	いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応するため、スクールライフサポーターを小・中学校10校に配置し、問題行動の未然防止を図ることができた。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができた。また、校内パトロールを実施することで、早期に情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		人権を尊重した教育の推進						点検評価表 作成課	学校教育課	
施策の方向性		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善する。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進する。								
施策に関連する 主な取組		○人権教育推進体制の充実 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ○児童虐待防止教育の推進 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実								
指標名		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値		
	小・中学校の全学級 で、人権感覚育成プロ グラムを活用した授業 実践を行った学級の割 合	小学校 76%	中学校 80%	76%	83%	86%	87%	88%	100%	100%
		現状値 (平成23年度)		小学校 76% 中学校 80%		目標値 (平成29年度)		小学校 90% 中学校 90%		
				→						

平成29年度 重点施策	○情報モラル教育の推進(再掲) ○人権感覚育成プログラムの活用の推進 ○児童虐待防止教育の研修会の充実	
平成29年度 実績	○人権教育推進体制の充実 ・新転任人権教育研修会を夏季休業中に実施した。 ・ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)と人権教育主任研修会を実施した。 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転任教職員研修や「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ」対応に関する研修、また、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施した。 ○児童虐待防止教育の推進 ・児童虐待対応研修会や子どもの虐待防止講演会に参加した。 ・児童虐待防止に関する指導を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局とのより一層の連携を図る必要がある。 ・引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。	
評価コメント	・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。 ・全小・中学校(29校)が、児童虐待対応研修会に参加し、研修内容を教職員間で共有するなどし、意識啓発、指導力の向上を図ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・情報モラルの教育は重要であり、情報社会で育った若い世代の意見を現場で活用してほしい。 ・児童虐待防止教育の研修は、非常に良く実施されている。虐待の防止は早期発見と適切な対応が必要なので、関係機関との連携を深めながら地域一体となって協力していく体制が必要である。 ・犯罪に巻き込まれる子供の低年齢化が進んでいる。保護者は、子供の状態に常に気を配って子育てをしてほしい。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	情報モラル教育の推進(再掲)		担当課	学校教育課
概要	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等に「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう情報モラルの研修を行った。 ・携帯電話の所持率やネットトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。	
	非行防止教室保護者参加人数	2,042人	平成28年度は2,265人であった。減少したものの、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているため、成果につながっている。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の所持率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	人権感覚育成プログラムの活用の推進		担当課	学校教育課
概要	人権感覚育成プログラムを活用した授業を通して、児童生徒の人権感覚の育成を図る。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚育成プログラムを活用した授業を、全小・中学校で実施することができた。 ・人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を、小学校16校、中学校7校で実施することができた。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	人権感覚育成プログラムを活用した授業の実践	100% (29校/29校)	児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業を全校で実施することができた。	
	人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施	79.3% (23校/29校)	教職員に人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を79%実施することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員を対象として人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、人権感覚の育成を図ることにより、児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図っていくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	児童虐待防止教育の充実		担当課	学校教育課
概要	児童虐待防止研修会等を実施し、児童虐待に対する教職員の意識と指導力の向上を図る。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校で、児童虐待に対応する要保護児童対策地域協議会を設置した。 ・各校1名、児童虐待対応担当者(児童虐待キーパーソン)を設置した。 ・児童虐待対応研修会への参加や、児童虐待対応に関する職員研修を実施した。 ・県教育委員会作成の「児童虐待早期発見シート」を活用した。 ・児童虐待防止啓発視聴覚資料DVD「クリームパン」の視聴を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童虐待対応研修会へ参加した学校の割合	100% (29校/29校)	全小・中学校が、県・市が主催する児童虐待対応研修会に参加し、児童虐待に対する教職員の意識を啓発することができた。	
	児童虐待対応に関する職員研修を実施した学校の割合	100% (29校/29校)	児童虐待対応に関する職員研修を各校で実施し、教職員の指導力の向上を図ることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童虐待対応研修会への参加や職員研修の実施を予定どおり行い、児童虐待防止教育を推進することができた。今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		健康の保持増進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進する。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進する。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○学校保健の充実							
		○食育の推進							
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進							
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	全児童生徒を対象とする 「体力等に関する調査」から、 「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生	94.0%	94.6%	95.6%	98.2%	97.1%	93.7%	92.1%
		中学校2年生	89.0%	89.6%	91.8%	94.4%	93.2%	91.1%	89.1%
		現状値 (平成23年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%		→		目標値 (平成29年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%	

平成29年度 重点施策	○食育の推進と朝食欠食の解消 ○中学校給食場建設事業	
平成29年度 実績	○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を作成した。 ・保護者参加の学校保健委員会を実施した。 ○食育の推進 ・地場産物を活用した献立を作成した。 ・岡部中学校及び花園中学校の自校式給食場の建設が終了した。 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた、性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業を実施した。 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。	
評価コメント	・2棟の給食場を計画通りに建設した。 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校(29校)で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校で年1回以上実施することができた。 ・体力向上推進委員会で、朝食や睡眠などの生活習慣調査を実施し、児童生徒の生活習慣の現状等を把握することができた。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校(29校)で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標である毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、90%を超える高い水準で推移している。引き続き、100%目指して子供や保護者に適切な情報を伝えてほしい。 ・全小・中学校が自校式の給食となったことは、素晴らしい。自校式の利点を発揮して、地域性を生かしたメニューを開発し、栄養があり子供の喜ぶ学校給食を展開してほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・栄養教諭等を中心に学校における食育を推進する。 			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進委員会に栄養教諭(2名)も委員として参加し、朝食摂取率の向上を目標に取り組んだ。 ・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校92.1% 中学校89.1%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は1.6ポイント、中学校は2.0ポイント低下した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	6月の食育月間では、各学校で食育の充実を図った。栄養教諭等を中心に、食に関する指導の充実を図った。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	中学校給食場建設事業		担当課	教育施設課
概要	<p>現在の学校給食については、学校単位の給食場で調理し児童生徒に給食を配食する自校方式と、1箇所の施設で一括調理し各学校に給食を配食する給食センター方式(岡部地区、花園地区)の2方式で運営していることから、全てを自校方式とするための給食場建設を行う。</p>			
平成29年度の実績	<p>岡部中学校と花園中学校の給食場建設工事を実施した。</p> <p>【給食場概要】</p> <p>岡部中学校：鉄筋コンクリート造平屋建て 延床面積288㎡</p> <p>花園中学校：鉄筋コンクリート造平屋建て 延床面積196㎡</p>			
	<p>●全体計画 計画学校数 6校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡部地区 5校(岡部小・榛沢小・本郷小・岡部西小・岡部中) ・花園地区 1校(花園中) <p>※花園小は、既存の給食センターを活用する。</p> <p>●整備実績【計画全行程完了】</p> <p>平成25年度完成：榛沢小・本郷小</p> <p>平成26年度完成：岡部小・岡部西小</p> <p>平成29年度完成：岡部中・花園中</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
自校式給食場建設棟数	2棟	給食場建設工事を実施し、2棟の給食場が建設された。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	4	岡部地区と花園地区の小・中学校に給食場が建設された事により、本事業の目的は達成された。今後は、適正な施設の維持管理を行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		体力の向上と学校体育活動の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。							
施策に関連する主な取組		○学校体育の充実		○「教育に関する3つの達成目標」の推進		○運動部活動の充実			
指標名		新体力テストの結果							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	新体力テスト結果の5段階絶対評価で上位2ランク(A, B)の児童生徒の割合	小学校	52.4%	51.8%	53.6%	56.7%	54.1%	55.5%	56.8%
		中学校	47.1%	57.8%	56.0%	57.0%	56.7%	56.9%	58.0%
		現状値 (平成23年度)	小学校 52.4% 中学校 47.1%		➡		目標値 (平成29年度)	小学校 57% 中学校 52%	

平成29年度 重点施策	○武道指導の充実 ○体力向上の取組の推進 ○外部指導者の活用 ○部活動のあり方検討	
平成29年度 実績	○学校体育の充実 ・体力向上推進委員会を年2回実施した。 ・小学校水泳実技指導者講習会と小学校体育実技指導者講習会を実施した。 ・外部指導者を活用する柔道授業を中学校5校で実施した。 ○「教育に関する3つの達成目標」の推進 ・新体力テストを実施した。 ・走力向上「50m走にチャレンジ」を実施した。 ○運動部活動の充実 ・外部指導者を活用し、全中学校(10校)に40名派遣した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。	
評価コメント	・新体力テストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると、小学校では1.3ポイント、中学校では1.1ポイント向上した。 ・全中学校(10校)で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・50m走の記録が低下しており、子供たちの体力が落ちてきていることが見受けられる。走ることは体力の基本なので、「50m走チャレンジ」の取組を更に推進してほしい。 ・国技である柔道の人気低迷しているため、部活動の面で力を入れてほしい。 ・外で走り回って遊ぶ子供が少なくなっている。体力向上のためには、体を動かす習慣を身に付けられるような指導をしてほしい。 ・外部指導者の活用は、子供や教員にとって大変有用である。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	武道指導の充実	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。		
平成29年度 の実績	○柔道の授業がある市内中学校5校(明戸、深谷、南、岡部、川本)に外部指導者を配置できた。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	柔道の授業がある学校への外部指導者の配置状況	100% (5校/5校)	柔道の授業がある5校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。
	柔道の授業における大きなけがをした生徒の数	0人	柔道の授業において、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	柔道支援では、外部指導者が保健体育科の教員の補助に入ること、安全かつ充実した授業展開を図ることができた。また、教職員の指導力を向上させるとともに、けが人を1人もだすことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策評価表

重点施策名	体力向上の取組の推進		担当課	学校教育課
概要	「50m走にチャレンジ」を推進するとともに、体育授業を充実し、児童生徒の体力向上を図る。			
平成28年度 の実績	<p>○体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高めることを目標に、全小・中学校(29校)で「50m走にチャレンジ」を実施した。</p> <p>○小学校で市教育委員会主催の「体育実技指導者講習会」を3回開催した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	新体力テストにおける50m走の記録が県平均を上回った割合	16.6%	昨年度と比較すると22.2ポイント低下した。	
	実技指導者講習会の実施回数	3回	小学校は体育実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。	
新体力テストにおける上位2ランクの児童生徒の割合	小学校56.8% 中学校58.0%	昨年度と比較して小学校では1.3ポイント、中学校では1.1ポイント向上した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>小学校は、実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、体育の授業を充実させることができた。新体力テストにおいては、「50m走」に課題はあるが、中学校における上位2ランクの生徒の割合は58.0%となり、目標値52%を上回ることができた。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策評価表

重点施策名	外部指導者の活用		担当課	学校教育課
概要	地域で専門的スキルを有する人材を外部指導者として派遣し、運動部活動における技術的な指導の充実を図る。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校に外部指導者を合計で40人配置した。 ・配置内訳は、剣道部5人、サッカー部7人、柔道部3人、ソフトテニス部6人、ソフトボール部4人、卓球部3人、バスケットボール部2人、バドミントン部3人、バレーボール部2人、野球部2人、ラグビー部3人であった。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	外部指導者の配置した中学校の割合	100% (10校/10校)	外部指導者を全中学校に配置できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	全中学校(10校)に外部指導者を配置することができた。また、外部指導者を活用することで、指導者の資質の向上を図るとともに、地域の指導者を活用することで、運動部活動と地域社会との連携を促進することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	部活動の在り方検討		担当課	学校教育課
概要	教員にとっての負担軽減を図ることができるよう、部活動の実態調査・研究を行い、深谷市の効果的な部活動の在り方について検討を進めるとともに、部活動のより一層の効果的な運営を推進していく。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の在り方に関する推進委員会を開催した。 ・部活動の部活動に係る諸調査を実施した。 ・平成30年度から深谷市立中学校に部活動指導員を設置できるよう要綱等作製し、制度設計を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	部活動の在り方に関する推進委員会の開催	1回	部活動の在り方に関する推進委員会を1回開催できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	スポーツ庁が策定した「運動部活の在り方に関する総合的なガイドライン」と、埼玉県教育委員会が策定する部活動の在り方に関する方針に則り、本市における部活動ガイドラインを策定できるよう、部活動の在り方に関する推進委員会等において協議をしていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		信頼される教職員の育成						点検評価表作成課	学校教育課
施策の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教師が子供と向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。 							
施策に関連する主な取組		<ul style="list-style-type: none"> ○教育研究所の機能の充実 ○経験豊かな人材の活用 ○教職員研修の充実 ○人事評価制度の充実 				<ul style="list-style-type: none"> ○指導力が不足している教員への対応 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 			
指標名		教職の経験年数に応じた研修の実施状況							
成果指標	指標の説明	平成29年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	若手や中堅・ベテランの教職員、管理職等の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施する	0	0	2	2	2	2	2	
	中堅教職員研修の回数	0	0	0	2	2	2	0	
	管理職研修の回数	2	2	3	3	2	2	1	
	現状値(平成29年度)	管理職対象の研修会2回の実施		→		目標値(平成30年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回) 		

平成29年度重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の活用 ○教職員の指導力の向上 ○経験年数に応じた教員研修 ○人事表評価制度への対応 	○ICT活用による校務支援
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○教育研究所の機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の機能の充実を図るため、研修の開催、学校・児童生徒・保護者及び地域の支援を行った。 ○経験豊かな人材の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊かな人材を活用し、児童生徒の問題行動や保護者・地域との対応等、学校が抱える様々な課題の解決に向けた支援体制として、学校総合支援員10名を配置した。 ○教職員研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実を図るため、研究所協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等を実施した。また、若手教職員対象の研修会を2回、市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施した。働き方改革にとともに、県の研修とのバランスをみて、今年度は、中堅・ベテランの教職員を対象とした研修会を実施しなかった。 ○人事評価制度の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度の充実を図るため、評価者研修会を実施した。 ○指導力が不足している教師への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力が不足している教師への対応として、各指導主事が学校を訪問し繰り返し指導を実施した。 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと向き合う環境づくりを推進するため、昨年に引き続き校務支援システム(指導要録の電子化等)を活用した。 ○悩みを抱える教職員に対する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱える教職員に対する取組として、担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談を年12回実施した。 	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・働き方改革に伴い、研修の効率化を図るとともに、若手教師の増加に対応した研修の充実を図る必要がある。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職を対象とした研修会を年間2回実施するとともに、若手教職員研修を2回実施した。中堅教職員研修については県の研修とのバランスをとり、実施しなかった。 ・教職員の指導力の向上については、研究所協力員による、「深谷市授業スタンダード」「ベーシック」を踏まえた指導案等の実践事例を作成した。また各教科等の担当指導主事による研修会等を実施できた。 ・校務支援システムを活用することにより、子供と向き合う時間を確保することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市授業スタンダードや深谷市授業ベーシックなどを若手教員が活用すれば、指導力や授業力の向上につながるのではないか。 ・学校の目指す方向性や生徒への対応方法など、総合的な研修の機会を用意して、更に教職員の資質・能力の向上を目指してほしい。 ・人事評価制度が効果的に運用されるよう、教職員の制度への理解を深めてほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	学校運営協議会の活用(再掲)		担当課	学校教育課
概要	深谷市コミュニティ・スクールを小・中学校に設置し、学校運営協議会の活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進するとともに、地域の活性化を図り、地域総がかりで次代を担う子供たちの育成をしていく。			
平成29年度の実績	<p>○全小・中学校(29校)に学校運営協議会を設置し、委員を任命した。</p> <p>○深谷市コミュニティ・スクール推進実行委員会、同推進委員会を年2回開催した。</p> <p>○学校運営協議会の充実を図るため、深谷市コミュニティ・スクール担当者会議、学校運営協議会会長連絡協議会を開催した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	各小・中学校の学校運営協議会の開催回数平均	3.5回	各校、学期に1回をベースに行った。協議の内容や各校の特色により、実施回数には差が見られた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	3	年度当初から全小・中学校(29校)で学校運営協議会を開始することができた。今後は学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会をしていく。また、県主催のフォーラム等にも学校運営協議会委員の参加を推進していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	教職員の指導力の向上		担当課	学校教育課
概要	「こころざし深谷教師塾」を通して、優れた教育指導技術を学ぶとともに、「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」をもとに指導力の向上に努め、日々の授業の充実を図る。			
平成29年度の実績	<p>○「こころざし深谷教師塾」によって、はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開し、優れた指導技術を学ぶ機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施校 25校(学校訪問に合わせて実施) ・参加教員数 85名 <p>○「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」を踏まえた授業実践を各校で取り組んだ。また、深谷市教育研究所協力員による実践事例を作成した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「こころざし深谷教師塾」に参加した人数	85人	昨年度は83人が参加しており、増加している。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	「こころざし深谷教師塾」に参加した人数が増加している。優れた授業実践を見る機会として、継続していく。また、引き続き、「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」をもとに教員の授業力向上を図っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	経験年数に応じた教員研修		担当課	学校教育課
概要	2年次教員研修会、中核教員研修会等の経験年数に応じた研修会の実施や自主的な研修会の支援を通じ、教職員の資質と力量の向上を図る。			
平成29年度の実績	<p>○市教育委員会が主催し、実施した研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修として、初任者研修、施設研修を実施した。 ・2年次研修として、セカンドステップ研修を実施した。 ・働き方改革にともない、県の研修(中堅教諭等資質向上研修)とのバランスをみて、今年度は、中堅・ベテランの教職員を対象とした、研修会を実施しなかった。 ・管理職を対象とした研修に関しても、働き方改革にともない、研修の回数を1回に減らした。 ・臨時教職員、非常勤講師等に関わる研修を実施した。 (アシスタントティーチャー、教科支援エキスパート、図書館補助員、スクールライフサポーター、学校相談員、学校総合支援員、理科支援員等) ・教科等指導法の研修を実施した。(算数・数学、理科、英語、体育、道徳) ・新任教職員及び転入教職員を対象とした人権教育に係る研修を実施した。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		若手教職員研修の回数	2回	セカンドステップ研修として2年次の教職員を対象とした研修を2回行った。
		中堅教職員研修の回数	0回	今年度、市としては中堅教諭を対象とした研修を実施しなかった。
	管理職研修の回数	1回	管理職登載者を対象とした研修会を1回実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	<p>たくさんの新任教職員が入ってくる中、指導力の向上とベテラン教職員の指導技術継承のため、若手教職員研修を実施することができた。しかし、仕事が増えてくる中堅教員・管理職に関しては、県の研修とのバランスを考え、見直していく必要があると考える。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	人事評価制度への対応		担当課	学校教育課
概要	人事評価結果が給与等へ反映されることを踏まえ、管理職が人材育成の視点に立ち評価が行えるよう、研修の充実を図る。			
平成29年度の実績	○評価者研修 ・対象 小中学校の校長及び教頭 ・内容 校長対象 3回 教頭対象4回 教職員評価システム変更点、人事評価制度運用上の留意点及び評価者の評価制度の向上を図った。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	管理職への研修会の回数	校長3回 教頭4回	人事評価制度の改正に伴い、講義形式と事例を取り上げての演習形式で、研修を実施	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	3	管理職である校長と教頭への評価者としての研修会をそれぞれ3回、4回実施することができた。平成28年度からは、評価結果が給与等へ反映されることから、改正点の理解と評価者としての、評価能力の向上を目指した研修の回数を確保し、充実を図る。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	ICT活用による校務支援		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】各小・中学校の校務用コンピュータに校務支援システムを整備することにより、名簿や出欠席、成績などの一元化された情報を、通知表や指導要録、調査書などに反映し、活用できるようにし、教職員の事務的業務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるようにする。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムをはじめとするICT機器の活用により、校務の効率化やICTの指導への利用を進めていくことができた。(校務支援システムによって軽減された時間:65.4時間(H26年調査)) 昨年度に引き続き、全小・中学校(29校)において校務支援システムを使った成績処理と指導要録、出席簿抄本、調査書、通知表等の作成を行い、教師が子どもと向き合う時間を確保した。 校務にICT機器を活用する能力については、93.1%の教師が活用することができる。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	校務にICT機器を活用することができる教員の割合	93.1%	平成28年の埼玉県平均82.0%を11.1%以上超える結果であった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度においてすべての整備を終え、システム導入前と比較して時間軽減や満足度を調査することができなくなった。そのため、校務にICT機器を活用することができる教師の割合を指標とすることとした。この指標において、県の平均を11%以上超える結果となった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		子どもたちの安心・安全の確保				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○東日本大震災の教訓を踏まえ、子供たちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施する。 ○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努める。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進する。 ○災害に強い情報基盤として、「緊急連絡サイト」を設置し、全ての小・中学校で活用していく。							
施策に関連する主な取組		○安全教育の推進							
		○学校の危機管理体制の整備・充実							
		○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進							
指標名		緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を年1回以上実施する	小学校	63.1%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		中学校	80.0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		現状値 (平成23年度)	小学校 63.1% 中学校 80%			→		目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%

平成29年度 重点施策	○ふっかちゃんヘルメットの活用 ○避難訓練の実施 ○地震対応マニュアルの活用 ○防犯・安全体制の充実	
平成29年度 実績	○安全教育の推進 ・全小・中学校(29校)で交通安全教室を実施した。 ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・全小・中学校(29校)が緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を実施した。 ・ミサイル発射を想定して、「アラート」を活用した避難訓練を実施した。 ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校(29校)で活用した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。	
評価コメント	・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校(29校)で1回以上実施できた。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校(29校)で活用することができた。 ・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・子供の命を第一に考え、ふっかちゃんヘルメットの取組を継続して行ってほしい。 ・深谷には活断層もあるので、避難訓練などには真剣に取り組んでほしい。 ・子供たちの安全を守るため、地域と連携して取り組んでほしい。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	ふっかちゃんヘルメットの活用		担当課	学校教育課
概要	ヘルメット着用の導入により、子供たちの大切な命を守ると同時に交通安全対策の一層の推進を図り、学校、家庭、地域が連携していく中で、更なる交通安全意識を向上させるため、ヘルメット購入に係る補助制度により、購入経費(実費の全額)を補助金として交付する。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象者は、深谷市立小学校に在学している、又は在学を予定している児童の保護者とする。 ・平成29年度補助額 1人あたり3,000円 ◆補助金総額 @3,000円×1230人=3,690,000円 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ヘルメットサポート補助人数	1,230人	平成30年度新1年生及び平成29年度途中転入者分の補助することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成29年度から市内全小学生児童が、登下校の際ヘルメットを着用し、事故防止や安全面での効果も再認識できたものと推測される。なお、ヘルメット着用により、重大な事故を防げた事案も確認された。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	避難訓練の実施		担当課	学校教育課
概要	緊急地震速報を活用した避難訓練を全小・中学校(29校)で実施し、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を活用した避難訓練は全小・中学校(29校)が実施した。 ・小学校においては、引き渡し訓練を含めた避難訓練を全小学校(19校)が実施した。 ・ミサイルを想定した、Jアラートのサイレン音を活用した避難訓練に関して全小・中学校(29校)が実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	緊急に地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全小・中学校(29校)において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	地震対応マニュアルの活用		担当課	学校教育課
概要	「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を活用した避難訓練及び保護者への緊急時における引き渡し訓練(小学校)を実施する。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・震度を基準にした「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直しをした。 ・引き渡し実施基準を明確化し、地震対応マニュアルを各学校から保護者へ周知し徹底した。 ・全小・中学校(29校)が地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した。 ・全小学校(10校)は、地震対応マニュアルを活用し、震度5弱以上の地震を想定した避難訓練後に保護者引き渡し訓練を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	引き渡し方法や下校方法を含む震度等を基本とする地震対応マニュアルの保護者への周知	100%	全小・中学校が地震対応マニュアルを配付等して周知した。	
	地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した小・中学校の割合	100%	全小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	全小・中学校(29校)において「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を基にし、緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。東日本大震災の教訓を忘れないよう、今後も学校等の意見を受けて、「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直し・修正等を行っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	防犯・安全体制の充実		担当課	学校教育課
概要	警察や関係諸機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、通学路の防犯・安全体制の充実を図る。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。 各小学校1名、スクールガードリーダーを委嘱し、通学路の見守り活動の中心となって活動した。 学校応援団、PTA等、多くの目で児童生徒の通学路の安全体制の充実を図った。 			
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント	
	深谷市通学路安全対策連絡会の実施回数	2回	各中学校区毎に共通理解を図ることができた。	
	評価区分	評価コメント		
	1	各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課で構成される、深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化することができた。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

施策名		学習環境の整備・充実				点検評価表 作成課	教育総務課	
施策の方向性		○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進める。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進する。						
施策に関連する 主な取組		○学校施設の整備推進						
		○学校図書館の整備・充実						
		○ICT環境の整備						
		○学校教材・備品の計画的な整備						
指標名		学校図書館図書標準を達成した学校の割合						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	学校図書館に整備すべき 蔵書を標準として、文部科 学省が定める基準を達成 した学校数の割合	小学校 94.7%	100%	100%	94.7%	100%	100%	100%
		中学校 100%	100%	90%	100%	100%	100%	100%
		現状値 (平成27年度)	小学校 89.5% 中学校 100%		目標値 (平成29年度)		小学校 100% 中学校 100%	

平成29年度 重点施策	○小・中学校施設整備事業 ○3つの機能としての充実	
平成29年度 実績	○学校施設の整備推進 ・花園小学校特別管理教室棟及び教室棟のトイレ改修工事を実施した。 ・花園中学校管理教室棟の大規模改修工事（Ⅰ期工事）として、建物の外部（外壁・屋上防水）・トイレ・ 受水槽改修及び太陽光発電設備設置等を実施した。 ・南中学校体育館の大規模改修工事設計業務を実施した。	
	○学校図書館の整備・充実 ・学校図書館の蔵書の充実を図るため、全小・中学校（29校）で図書の新規購入、更新を行った。 ・全小・中学校（29校）に市費の図書館補助員を配置した。	
	○ICT環境の整備 ・小学校8校、中学校2校で教師指導用タブレットの入替を行った。 ・小学校8校、中学校6校で児童生徒学習用タブレットの入替を行った。 ・小学校3校、中学校2校でパソコン室用コンピューター等の入替を行った。	
	○学校教材・備品の計画的な整備 ・国庫補助金を活用して、理科、算数及び数学の設備を整備した。 ・全小・中学校（29校）で、破損した児童生徒用の机・椅子を更新した。 ・小学校2校、中学校2校で、老朽化した職員室等のエアコンを更新した。	

総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
------	----------	---

課題	・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。 ・学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能充実のため、計画的に資料を更新する必要がある。
----	---

評価コメント	・計画どおり小・中学校のトイレ改修及び大規模改修を進めることができた。 ・計画的な図書の購入により、全小・中学校（29校）で学校図書館の標準図書冊数を上回ることができた。 ・授業でタブレットPCを活用できる環境の整備を進めることができた。 ・国庫補助金を活用したことにより、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。 ・老朽化した多くの学校備品を更新することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
--------	--

意見・提言	・子供や教職員が安心して過ごせるよう、施設や設備の充実が図られているので、継続してほしい。 ・子供が使いやすくなるので、校舎のトイレの洋式化を進めることは有用である。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校施設整備事業	担当課	教育施設課
概要	校舎や体育館を通常の学校施設として、また、災害時の避難場所として安全に使用するため、地震に対する安全性の確保及び老朽化や教育内容の変化に対応できるように、構造部材の耐震化及び施設の改修工事を実施する。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修工事の実施 花園小学校特別管理教室棟及び教室棟のトイレ改修工事を実施した。 ・大規模改修工事の実施 花園中学校管理教室棟の大規模改修工事（Ⅰ期工事）として、建物の外部（外壁・屋上防水）・トイレ・受水槽改修及び太陽光発電設備設置等を実施した。 ・大規模改修工事設計の実施 南中学校体育館の大規模改修工事設計業務を実施した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	トイレ改修工事が完成した建物棟数（年度計画2棟）	2棟	年度計画どおり2棟のトイレ改修工事が完成した。
	大規模改修工事が完成した建物棟数（年度計画0.5棟）	0.5棟	花園中学校の管理教室棟1棟をⅠ期、Ⅱ期の2か年で計画しており、平成29年度にⅠ期工事が完成したことから0.5棟の実績とし、年度計画どおりの進捗となっている。
大規模改修工事設計業務が完了した建物棟数（年度計画1棟）	1棟	年度計画どおり1棟の大規模改修工事設計業務を完了した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	平成29年度に改修を予定していたトイレ改修工事（2棟）、大規模改修工事（0.5棟）は、計画どおりに実施できた。大規模改修工事設計業務（1棟）は、雨漏り等の不具合による緊急度を考慮し、対象校の見直し（榛沢小北校舎からの見直し）を行ったものの、計画どおり1棟の設計業務を実施することができた。引き続き、設計業務が完了している花園中学校管理教室棟（Ⅱ期工事）及び南中学校体育館の大規模改修工事に向けた事務手続を進めていく。	
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）			

重点施策名	3つの機能としての充実	担当課	学校教育課
概要	各教科の授業における調べ学習において、図書館補助員が子供たちの学習支援を図るなど、学習センターとしての機能を充実する。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○全小・中学校（29校）で図書館補助員を配置した。 ○全小・中学校（29校）総合的な学習の時間や国語の授業において学校図書館を活用した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	授業における学校図書館を活用した学校数の割合	100%	総合的な学習の時間や国語の授業において、全小・中学校が学校図書館を活用した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	全小・中学校（29校）で授業において、学校図書館の活用ができた。継続して、活用する中で、活用の工夫を工夫、充実させると共に、図書館補助員のレファレンスサービスの向上を図っていく。	
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）			

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ－1

施策名		家庭の教育力の向上						点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課
施策の方向性		○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進する。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○家庭教育学級の充実							
		○「親の学習」講座の推進							
		○家庭教育だより「まごころ」の発行							
指標名		新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数							
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)	3回 (3校)	4回 (4校)	9回 (9校)	10回 (10校)	10回 (10校)	
		現状値 (平成23年度)		未実施		→		目標値 (平成29年度)	全中学校で、 年1回以上実施

平成29年度 重点施策	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業	
平成29年度 実績	<p>○家庭教育学級の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全公民館(12館)において、家庭教育学級を実施した。 ・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。 <p>○「親の学習」講座の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校(19校)で、就学時健診において保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ・全中学校(10校)で、新1年生となる児童の保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 <p>○家庭教育だより「まごころ」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回発行した。(計19,500部、自治会回覧方式) 	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「親の学習」については、新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法について、検討の必要がある。 ・「まごころ」については、自治会回覧方式に変更したことにより、今まで目にしていなかった家庭にも届くことを考慮し、必要によっては内容を検討していく。 	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級は、各公民館において特色のある講座を実施できた。 ・「親の学習」講座については、全小・中学校(29校)の保護者を対象に実施することができた。 ・「まごころ」の配布形態を自治会回覧方式に変更したことにより、より多くの家庭に届けることができています。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館で実施している家庭教育学級は、地域の様々な方と交流出来るように工夫して、今後も充実した活動を継続してほしい。 ・家庭教育だより「まごころ」の自治会回覧は、学校の状況を地域で把握できる非常に良い取組である。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	家庭教育学級事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	家庭教育学級の内容等を公民館と検討し、実施する。		
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全公民館(12館)において、「親の学習」講座を中心として、「人権学習」、「親子料理教室」や「音楽鑑賞会」など家庭教育学級を実施した。 ・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	家庭教育学級の実施回数	34回	前年度と同じ回数を実施している。
	家庭教育学級の参加者数	2,439人	参加者数は前年度(2,470人)より減少している。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	市内各公民館で、「親の学習」を中心とした各地区で特色のある家庭教育学級を実施した。「親の学習」については、各公民館が社会教育指導員と相談しながら計画的に事業を行うことができている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	家庭教育事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	「親の学習」講座を新小学1年生及び新中学1年生の保護者に対して実施する。また、家庭教育だより「まごころ」を年3回発行する。		
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○「親の学習」講座の推進 ・全19小学校において、就学時に新1年生の保護者を対象として「親の学習」講座を実施した。 ・新中学1年生(小学6年生)の保護者を対象とした「親の学習」講座を全中学校の保護者を対象に実施した。 ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・年3回発行した。(19,500部) ・平成27年度より自治会回覧方式に変更した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「親の学習」講座の実施回数	29回	「親の学習」講座を市内小学校及び中学校の保護者を対象に実施した。
	「親の学習」講座の参加者数	1,738人	「親の学習」講座の参加者数は前年度(1,797人)より減少している。
	「まごころ」年間発行部数	19,500部	自治会回覧方式のため、発行部数は前年度と同じである。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法は、検討の余地があるが、「親の学習」講座については、全小中の保護者を対象に実施ができ、参加者数については横這いである。「まごころ」は全3回発行することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名	地域の教育力の向上		点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課				
施策の方向性	○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進する。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進する。							
施策に関連する 主な取組	○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進				
	○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進				
	○学校応援団の推進							
	○学校教育・社会教育の連携							
指標名	「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%	94.5%	95.1%	92.0%	95.0%	91.4%
		現状値 (平成23年度)		66.8%	➡	目標値 (平成29年度)		95.0%

平成29年度 重点施策	○放課後子ども教室等推進事業 ○学校運営協議会の活用(再掲) ○深谷の子「6つの誓い」の活用	
平成29年度 実績	<p>○世代間交流事業の推進 ・全公民館(12館)で各種学級講座等を開催し、13,220人の参加があった。前年度(14,097人)よりも減少した。</p> <p>○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを全小学校(19校)で実施した。</p> <p>○学校応援団の推進 ・安心して学校応援活動を行うことができるよう、学校支援者補償制度に加入した。 【主な取組内容】授業の補助、登下校の安全管理、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、校内の環境整備、学校行事の運営支援など ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。</p> <p>○学校教育・社会教育の連携 ・小・中学校において「親の学習」を開催した。</p> <p>○ボランティア活動の促進 ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・ふかや市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。</p>	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・「がんばル〜ム」については参加者数が減少しているため、参加者が少ない小学校の人数を増加させたい。	
評価コメント	<p>・成果指標であるがんばル〜ムの参加児童の満足度は、前年度に比べて若干下がったが、90%以上の高い満足度を維持している。</p> <p>・学校運営協議会や推進委員会などにより、学校・家庭・地域が連携した学校づくりにおける推進体制、連絡体制の強化・充実が図られた。</p> <p>・深谷の子「6つの誓い」については、実践内容を深谷市教育委員会やホームページで紹介するなど、各学校での取組を支援することができた。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>	

意見・提言	<p>・がんばル〜ムは充実した内容で、子供が家庭以外で勉強する場を持てる非常に素晴らしい取組である。</p> <p>・子供の居場所づくりでもあり、働く保護者にとっても有り難い取組であるので、がんばル〜ムを継続して欲しい。</p>
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	放課後子ども教室等推進事業		担当課	生涯学習 スポーツ推進課
概要	児童の休日の居場所作り、有意義な活動機会を提供するため、全小学校(19校)において、毎週土曜日の午前中、学習支援事業「がんばル〜ム」を実施する。			
平成29年度 の実績	・全小学校(19校)で、「がんばル〜ム」を実施した。(夏季等長期休暇及び各学校の行事の無い日、天候等による中止を除く。)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	がんばル〜ム実施回数(全小学校)	498回	各学校の事業等で実施回数にバラつきがあるが、実施可能日については、全日程実施できた。	
	がんばル〜ム参加者数(全小学校)	935人	昨年度(1,014人)よりも参加児童数は減少した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	参加児童数は昨年度よりも減少している。引き続き、小学生のより良い土曜の居場所作りを継続していくものとする。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	学校運営協議会の活用(再掲)		担当課	学校教育課
概要	深谷市コミュニティ・スクールを小・中学校に設置し、学校運営協議会の活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進するとともに、地域の活性化を図り、地域総がかりで次代を担う子供たちの育成をしていく。			
平成29年度 の実績	<p>○全小・中学校(29校)に学校運営協議会を設置し、委員を任命した。</p> <p>○深谷市コミュニティ・スクール推進実行委員会、同推進委員会を年2回開催した。</p> <p>○学校運営協議会の充実を図るため、深谷市コミュニティ・スクール担当者会議、学校運営協議会会長連絡協議会を開催した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	各小・中学校の学校運営協議会の開催回数平均	3.5回	各校、学期に1回をベースに行った。協議の内容や各校の特色により、実施回数には差が見られた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	年度当初から全小・中学校(29校)で学校運営協議会を開始することができた。今後は学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会をしていく。また、県主催のフォーラム等にも学校運営協議会委員の参加を推進していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	深谷の子「6つの誓い」の活用		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、小・中学校の園児・児童・生徒には前年までに配布済みになっているので、各幼稚園の4歳児、小学1年生にチラシを配布し、各家庭に周知した。市役所、公民館及び総合支所にチラシを配布した。 ・深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小・中学校のホームページでも随時取組を紹介した。 ・市内の各種団体(子どもサポート市民会議、深谷市PTA連合会等)の集会でチラシを配布し取組を紹介した。 ・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集した。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		チラシの配布	100% (39/39)	市内各幼稚園(4歳児)、小学校(1年生)の園児・児童に配布した。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市内各小・中学校での実践を、深谷市教育委員会や各校のホームページで紹介するなど、各学校の取組を支援することができた。各種団体の集会時に、チラシを配布するなど、市民へも知らせることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅴ 生涯を通じた学習活動の推進

Ⅴ-1

<p>施策名</p> <p>学習機会の提供と学習活動の支援</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備する。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図る。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○生涯学習推進体制の整備・充実 ○指導者の育成・確保 ○学習情報の収集と提供 ○講座・教室の充実</p>			<p>○市民大学の推進 ○子ども体験学習の推進 ○放課後子ども教室の推進(再掲)</p>			
<p>指標名</p>		<p>「ふかや市民大学」の満足度</p>						
<p>成果指標</p>	<p>指標の説明</p>	<p>平成23年度 実績値</p>	<p>平成24年度 実績値</p>	<p>平成25年度 実績値</p>	<p>平成26年度 実績値</p>	<p>平成27年度 実績値</p>	<p>平成28年度 実績値</p>	<p>平成29年度 実績値</p>
	<p>受講生に対しアンケートを行い、受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合</p>	<p>93.7%</p>	<p>98.0%</p>	<p>98.0%</p>	<p>98.0%</p>	<p>96.7%</p>	<p>93.0%</p>	<p>92.4%</p>
	<p>現状値 (平成23年度)</p>	<p>93%</p>		<p>➡</p>		<p>目標値 (平成29年度)</p>	<p>95%</p>	

<p>平成29年度 重点施策</p>	<p>○市民大学運営事業 ○子ども大学ふかや推進事業</p>	
<p>平成29年度 実績</p>	<p>○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。また、各公民館において各種講座を実施した。</p> <p>○市民大学の推進 ・ふかや市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表を行った。 ・ふかや市民大学運営委員会では、次年度に向けて市民大学講座の見直しを行った。 ・校友会とともに、協働事業(「ふかや市民大学生き生きフェスタ」「深堀講座」)を実施した。</p> <p>○子ども体験学習の推進 ・子ども大学ふかやを開催し、全5回のプログラムを実施した。</p> <p>○放課後子ども教室の推進(再掲) ・がんばル〜ムを全小学校(19校)で実施した。</p>	
<p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>
<p>課題</p>	<p>ふかや市民大学受講生の満足度が下がっており、受講生のニーズに合った講座の実施が必要である。</p>	
<p>評価コメント</p>	<p>・各公民館において各種講座を実施し、地域ごとに学習機会の支援をすることができた。 ・ふかや市民大学の満足度は目標値を下回ったが、依然90%以上を維持している。 ・ふかや市民大学校友会と協働事業を実施することができた。 ・子ども大学ふかやの応募者数は定員を大幅に上回り、抽選により参加者を決定した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>	

<p>意見・提言</p>	<p>・公民館でのパソコン講習会の実施が、市民の技能向上に役立っており、評価できる。 ・市民大学は、大学などの協力もあり充実した運営ができています。市民大学と子ども大学の連携はとても良いアイデアなので、検討を進めてほしい。</p>
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民のボランティア意識の高揚を促進するため、深谷の歴史や社会貢献活動等の講座を実施する。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。 ・市民大学運営委員会による市民大学講座の見直しを行い、次年度にむけた講座の計画を立てることができた。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市民大学応募者数	81人	募集人員(80名)を上回る応募があった。	
	市民大学講座回数	20回	予定していたすべての講座を実施することができた。	
	市民大学運営委員会の開催回数	3回	運営委員会において、カリキュラムの見直しを図った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民大学については、募集定員を上回る応募があり、年間をとおして全20回の講座を実施できた。市民大運営委員会では、次年度に向けてカリキュラムの見直しを図った。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	子ども大学ふかや推進事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興
概要	埼玉工業大学、東都医療大学、青年会議所、NPO法人、埼玉県、深谷市などが連携して実行委員会により運営されるもので、市内の小学4～6年生を対象に、子どもの知的好奇心を満足させる学びの機会を提供する。			
平成29年度 の実績	なぜを追及する【はてな学】、ふるさとのことを深く知る【ふるさと学】、より良く生きる【生き方学】の3分野にわたって、大学の先生やその道のプロフェッショナルが分かりやすい授業を行った。全5回			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	子ども大学応募者数	93人	募集人員(50名)を大幅に上回る応募があった。【抽選】	
	子ども大学講義回数	5回	予定していたすべての講義を実施することができた。	
	子ども大学運営委員会の開催回数	3回	実行委員会において、講義の見直しなどを図った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	子ども大学ふかやについては、募集定員を大幅に上回る応募があった。7月から11月にかけて全5回のプログラムをすべて実施することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標 V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

施策名		活動施設の整備・充実						点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課
施策の方向性		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○公民館の整備・充実							
指標名		公民館利用者数							
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名	513,817名	529,772名	538,740名	551,930名	576,945名	
		現状値 (平成22年度)		523,505名	➡	目標値 (平成24年度)		530,000名	

平成29年度 重点施策	○公民館施設整備維持事業 ○岡部・川本公民館建設事業	
平成29年度 実績	○公民館の整備・充実 ・利用者の安全、利便性を確保するため各公民館において各種修繕を行った。 ・大寄公民館及び豊里公民館の体育室天井改修工事を実施した。 ・岡部公民館の建設に向けて、用地取得が完了した。また、工事の発注、請負業者の決定を経て、工事が開始された。 ・川本公民館については、建設予定地の防災調査を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・老朽化した公民館施設について維持管理コストの増加が懸念される。 ・岡部公民館の建設工事において、関係部署と細部の協議が必要である。 ・川本公民館については、建設予定地が決定した場合、速やかに設計業務等事務を進める必要がある。	
評価コメント	・各公民館においては、各種修繕を適正に行うことができた。 ・大寄公民館、豊里公民館において体育室の天井等に係る大規模な修繕を実施することができた。 ・岡部公民館、川本公民館についてはそれぞれ課題はあるものの、建設に向けて着実に事務を進めることができた。 ・成果指標である市内12公民館の年間利用者数は、前年度より増加している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・深谷市には整備された多くの公民館があるので、積極的に活用して、コミュニティの場として利用できるが良い。 ・公民館の修繕が行われているが、引き続き施設の充実を図ってほしい。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	公民館施設整備維持事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	岡部公民館建設に向けて、用地取得、設計業務等の事務を進める。また、川本公民館建設については、建設協議会を行う。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 岡部公民館の建設に向けて、設計業者を公募型プロポーザルで選定し、設計業務を開始した。また、用地取得に向けた土地収用法関連事務を進めた。 川本公民館については、建設に向けて川本公民館建設協議会会議や、川本地区の方へのアンケートを実施した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	川本公民館建設協議会会議回数	3回	新たな公民館に必要と考えられる機能、設備等について協議を実施した。
	評価区分	評価コメント	
担当課評価	1	新たな岡部公民館の建設については、設計業者を選定し設計業務を開始することができた。また、川本公民館については川本地区の方にアンケートを実施し、協議会の中で意見を生かしながら進めることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	岡部・川本公民館建設事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	利用者の安全確保のため、非構造部材の耐震対策として、吊り天井となっている3公民館(幡羅、大寄、豊里)体育室を順次改修工事を進める。平成28年度は幡羅公民館の天井改修工事を実施する。また、老朽化が進んでいる南公民館体育室の屋根について、改修工事を実施する。		
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 幡羅公民館体育室天井改修工事の実施 南公民館体育室屋根等修繕工事の実施 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	体育室修繕工事実施数	2館	修繕等が必要な体育室について、順次工事を実施することができた。
	評価区分	評価コメント	
担当課評価	1	幡羅公民館体育室吊り天井改修工事、南公民館体育室屋根等修繕工事を滞りなく実施できた。引続き、修繕の必要な工事について計画的に実施するものとする。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅴ 生涯を通じた学習活動の推進

V-3

施策名		図書館の整備・充実						点検評価表 作成課	図書館
施策の方向性		○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図る。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進める。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努める。							
施策に関連する 主な取組		○図書館資料の整備・充実 ○利用者へのサービスの充実 ○読書活動の促進 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実							
指標名		資料貸出点数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	図書館4館及びL・フォルテの年間貸出点数の合計(資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)	712,427点	694,783点	658,686点	595,227点	611,457点	575,417点	573,207点	
		現状値 (平成27年度)		690,105点	→		目標値 (平成29年度)		708,000点

平成29年度 重点施策	○児童生徒の利用の促進 ○乳幼児の利用の促進							
平成29年度 実績	○図書館資料の整備・充実 ・一般書から児童書まで、利用者からの要望に沿った資料を購入し、全体的にバランスの取れた図書資料を精選の上購入した。 ○新たな事業の展開 ・深谷子ども本の会との共催によるおとなのためのクリスマスおたのしみおはなし会の実施(12月) ・子ども食堂まめっこや市民ボランティアと協力してのお楽しみおはなし会の実施(3月) ○読書活動の促進 ・市内保育園、幼稚園、小・中学校、高校に読書活動に関するアンケート調査を行い、読書傾向の把握に努めた。 ・「ブックスタート」「赤ちゃんタイム」「おはなし会」「えいが会」などの乳幼児～小児対象の事業や、「夏休み子ども図書館員体験」事業や中学・高校生の社会体験活動としての図書館就業体験など図書館への興味を抱かせる事業を実施した。 ・「読み聞かせボランティア養成講座」「古典文学講座」などの大人向けの講座など、従来からの図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。 ・平成30年から34年を計画期間とした第2次子供読書活動推進計画の策定を行った。 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・花園図書館のエアコンを修繕し、快適な読書環境の維持を図った。							
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題	・子供の読書活動の推進のためにも学校図書館との連携を図っていく必要がある。 ・計画的な資料の更新や郷土資料の保存を進めていく必要がある。 ・年間貸出点数が増加するよう、利用者のニーズに沿った資料選定や読書推進イベントなどの活用を行う必要がある。							
評価コメント	・市イメージキャラクターふっかちゃんを主人公としたブックスタート用絵本の制作と読み聞かせへの活用は、全国で初めてであり乳幼児の読書推進と子育ての応援に寄与している。 ・児童の図書館見学の際には必ず図書の貸出を体験してもらい、その後の読書習慣の定着に向けた取組となっている。 ・図書館主催事業は総じて好評を得ている。特に乳幼児～小児を対象とした読み聞かせ・おはなし会などは、参加者の増加が認められ、子どもたちのみならず、保護者も含め利用者の拡大をすることができた。また、読み聞かせボランティア養成講座などは、受講後に読み聞かせボランティアとして図書館事業の協力者となるなど読書活動の推進に貢献している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							

意見・提言	・ボランティアと協力して様々な読み聞かせ活動を行っており、素晴らしい。 ・近年建設された他市の図書館を参考にして、更に素晴らしい空間づくりを行ってほしい。							
-------	--	--	--	--	--	--	--	--

重点施策評価表

重点施策名	児童生徒の利用の促進	担当課	図書館
概要	子供向けの図書資料や新聞資料などの充実を図り、児童生徒の利用を促進する。		
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・子供向けの新聞資料を各図書館で閲覧できるように整備した。 ・子供向けの図書資料のうち利用頻度が高く人気があるものについては複数の館で購入し整備した。 ・調べ学習などに利用する学習事典などの資料を整備した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	子供向け新聞資料の整備	5紙	全国紙の中で、小・中・高校生向けの新聞を発行している新聞資料を整備した。
	児童資料の受入数	2,299点	子供向けの図書資料を各種受け入れた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	図書館主催の事業の他に、学校や学校図書館と連携して児童・生徒の図書館利用の推進を図っていく必要がある。平成30年度から第2次子供読書活動推進計画の計画期間となるため、施策を進めていく。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

重点施策名	乳幼児の利用の促進	担当課	図書館
概要	ふっかちゃんを主人公としたブックスタート用絵本を対象者にプレゼントし、家庭やおはなし会などの活用を推進する。		
平成29年度 の実績	乳児では、4か月児健診におけるブックスタート時にふっかちゃん絵本をプレゼントするとともに、読み聞かせを実施している。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ブックスタートにおける読み聞かせ人数	1,013人(44回)	生まれてまもない時期からの読み聞かせによる親子のコミュニケーションは、読書が好きな子に育っていくためにも重要な機会である。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	子供が本と出会うきっかけを作ることが重要であり、子供が乳幼児期から本に接することの大切さや、家庭での読書の重要性を保護者に理解してもらうために継続して実施していく必要がある。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

施策名 渋沢栄一翁の顕彰		点検評価表 作成課		渋沢栄一記念館				
施策の方向性		○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信する。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進する。						
施策に関連する主な取組		○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信						
		○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用						
指標名		渋沢栄一ゆかりの施設見学者数						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	1年間における誠之堂・清風亭及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名	16,331名	30,420名	24,390名	20,572名	21,078名
		現状値 (平成27年度)		15,000名		目標値 (平成29年度)		18,000名

平成29年度重点施策	○渋沢栄一記念館における展示活動の充実 ○論語の里の情報発信の充実 ○渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業	
平成29年度実績	○渋沢栄一記念館の充実 ・渋沢栄一記念館資料室の常設展示替えを行うとともに企画展を開催した。 ・見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置した。 ・渋沢家住宅、尾高惇忠生家から発見された資料の調査を実施した。 ・渋沢栄一記念館に収蔵している資料リストの見直しを行い、データベース化を進めた。 ・収蔵資料の保管容器を整えとともに、傷みの激しい資料について修復を行った。 ○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ・講演会の開催を通じ、渋沢栄一翁の事績に関する専門的な研究成果を公開した。 ・栄一塾や史跡めぐりを開催し、渋沢栄一翁と郷土八基との関係を学ぶとともに、秩父地方に残る渋沢一族の足跡を訪ね、渋沢栄一翁の活動の原点に触れる機会を提供した。 ・平成28年4月1日にリリースした、「論語の里」散策のためのガイド機能を持つ「論語の里」アプリケーションの継続的な保守点検を行い、正常動作環境を保つとともに、アプリケーションの機能を用いたクイズラリーを開催した。 ○《市民協働》渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用 ・渋沢栄一翁と論語の里ボランティアの会主催の「季節のおもてなし事業」を開催した。 ・ボランティアの会の発案で、八基小学校との協働事業として、6年生の児童を対象とした藍染教室を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	・企画展やイベントを通じた情報発信をさらに推し進める必要がある。 ・「論語の里」の見学環境を整えるためにも、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の速やかな改修整備が必要である。 ・旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の改修整備の実現まで、まだ多くの課題がある。 ・ボランティア団体の活動については、引き続き支援を行う必要がある。	
評価コメント	・渋沢栄一記念館資料室に収蔵されている資料の修復、整理とデータベース化を進めることができた。 ・ボランティア団体主催のおもてなし事業の開催に加え、ボランティアと小学校の協働事業を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・「くるりん」などの公共交通機関と連携して、気軽に渋沢栄一記念館に足を運んでもらえるように工夫してほしい。 ・スマートフォン用のアプリを活用して、引き続き深谷市のPRを行ってほしい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一記念館における展示活動の充実		担当課	渋沢栄一記念館
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展を開催し、渋沢栄一翁の様々な功績を提示することで、新たな見学者の受入環境を整えるとともに、再来の方にも興味を持ってもらう。 ・見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置する。 			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の一部見直しを行い、コーナー展示(「新収藏品展」「収藏品展「渋沢栄一の書」「豊蚕を願って」)を開催した。 ・2回の企画展(「埼玉学生誘掖会と渋沢栄一」「深谷から富岡へ—富岡製糸場への道」)を開催した。 ・資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置し、見学者への対応を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	常設展見学者数	5,458人	年度半ばと年度末にコーナー展示を開催することができた。	
	企画展見学者数	8,746人	企画展を2回開催することができた。	
資料解説員配置日数	359日	年末年始、休館日以外の全日配置を実現した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	常設展示の一部見直し、新たな企画展の立案・開催を継続し、引き続き見学者の受入れ体制の充実を図っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	論語の里の情報発信の充実	担当課	渋沢栄一記念館
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン用の「論語の里」アプリケーションを導入し、論語の里の回遊環境を向上させる。 ・市内外へのPRを充実させる。 		
平成29年度の 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働中の「論語の里」アプリケーションの保守点検を継続的に行い、利用環境の保全を行った。 ・アプリケーションを利用したクイズラリーを通年で開催し、新たな利用者の発掘を行った。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	アプリケーションの総インストール数	3,389回	iOS版(3,085)、Android版(304)の合計
	クイズラリー開催数(開催日数)	19回(365日)	今年度は通年開催とし、関連行事期間以外の平日でも、見学者が楽しめるように配慮した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	2	携帯端末のOSアップデートに伴うアプリケーションの改良、利用上の不具合箇所の改善によるアプリケーション利用環境の保全を図り、更なる利用者の開拓を目指していきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業		担当課	渋沢栄一記念館
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の改修整備を行う。 ・ボランティアガイドの育成・支援に取り組む。 			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一記念館の駐車場を整備し、行事参加者の集合拠点を設けることができた。 ・渋沢栄一翁と論語の里ボランティアの会主催による「季節のおもてなし事業」「論語の里まち歩き」を開催することができた。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	1年間における誠之堂・清風亭及び中の家の見学者の合計	21,078人	前年度の見学者数を約500人上回ることができた。	
	季節のおもてなし事業参加者数	2,877人	春、夏、秋に3回、年度末に1回開催することができた。	
論語の里まち歩きツアー参加者数	35人	渋沢栄一記念館を起点として、10回実施することができた。参加者の更なる増加を目指し、従来の指定日コースの開催数を減らすかわりに見学者の自由になる希望日コースを設定したが、希望日コースへの申し込みが当初予想を大きく下回ってしまった。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	3	「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の調査、設計、改修を実施していく必要がある。また、発足したガイドボランティア団体の活動支援を行い、「論語の里」を発信源とする市民活動の定着を促していきたい。		

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-2

施策名		伝統文化の保存・継承と活用						点検評価表 作成課	文化振興課
施策の方向性		○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じる。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化の素晴らしさを伝えていく。							
施策に関連する 主な取組		○文化財の調査、保護、管理と活用 ○埋蔵文化財の保護、保存 ○民俗芸能の保存と継承 ○文化財施設の整備・活用				○文化財保護思想の高揚			
指標名		普及公開事業数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回	9回	15回	12回	9回	9回	
		現状値 (平成23年度)		10回	→		目標値 (平成29年度)		12回

平成29年度 重点施策	○文化財活用事業 ○埋蔵文化財調査事業 ○日本煉瓦保存整備事業	
平成29年度 実績	○文化財の調査、保護、管理と活用 ・市指定有形文化財の現状確認調査(悉皆調査)を行った。	
	○埋蔵文化財の保護、保存 ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査(69件)・発掘調査(12件)を行った。	
	○民俗芸能の保存と継承 ・無形民俗文化財後継者育成補助事業として文化財所有団体に経費の補助を行った。 ・無形民俗文化財(町田獅子舞)の記録保存を行った。	
	○文化財施設の整備・活用 ・誠之堂・清風亭の公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の公開を行った。	
	○郷土の歴史への関心や文化財保護思想の高揚 ・郷土の歴史や文化財に関する煉瓦講座や、遺跡報告会等を開催した。 ・川本出土文化財センターにて企画展「農村の人々と牛馬」を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事等を行う必要がある。 ・幡羅官衙遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。	
評価コメント	・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。 ・文化財施設や旧煉瓦製造施設の公開や、郷土の歴史や文化財を身近に感じられる企画展等を行うことができた。 ・成果指標である講演会や展覧会の開催数は、目標値に及ばなかったが、多数の参加者があった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・誠之堂・清風亭、ホフマン輪窯、レンガ造りの建物などをもっとPRしてほしい。 ・文化財の保存・整備を行い、今後も伝統文化を継承して欲しい。 ・有形文化財の保護のため、所有者の維持・管理が楽になるような制度を整えてほしい。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	文化財活用事業	担当課	文化振興課
概要	指定文化財の所有者・管理者等が行う保存修理や管理事業等に対し補助し、文化財が適切に将来へ継承できるよう図るとともに、出土文化財や史跡等の公開機会を設け活用を推進する。		
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幡羅遺跡の国史跡指定記念講演会を行った。 ・市内発掘現場の現地説明会を実施した。 ・市内指定文化財の所有者等に対して、管理費を交付した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	文化財企画展示会の実施回数	9回	文化財を広く市民に周知するため、文化財企画展示会を実施した。
	現地説明会の実施回数	1回	文化財を広く市民に周知するため、現地説明会を実施した。
管理費の交付件数	38件	市内文化財の適正な管理及び保存を目的として、文化財所有者等に対し、管理費を交付した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	市民が歴史や文化財を身近に感じられる事業を実施し、今後も効率的に歴史、文化の継承を図り、様々な企画を継続して実施していくことが必要である。	

重点施策評価表

重点施策名	埋蔵文化財調査事業		担当課	文化振興課
概要	北通り線整備工事、明戸北部圃場整備をはじめとする埋蔵文化財包蔵地内で、行われる開発に先立ち、確認調査、発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の適切な保護、保存を行う。			
平成29年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において確認(試掘)調査を行った。 ・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において発掘調査を行った。 ・前年の発掘調査の報告書を刊行した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	確認(試掘)調査の実施件数	69件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために確認(試掘)調査を実施した。	
	発掘調査の実施件数	12件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために確認(試掘)調査を実施した。	
	発掘調査報告書の刊行数	9件	地域の歴史を構成する資料となる調査報告書を刊行した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	開発に伴う確認(試掘)、発掘調査等の業務を円滑に行うことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存整備事業		担当課	文化振興課
概要	平成27年度から平成28年度までの2年にわたる国指定重要文化財である旧煉瓦製造施設の調査工事の成果を受け、検討した保存修理方針により、保存修理工事に向けた準備を行う。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保存修理工事実施に向けた意思決定を行い、議員全員協議会において報告を行った。 ・国の予算スケジュール変更の影響を受けたが、交付申請を12月に行い、2月に交付決定を受けた。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	国庫補助金の交付申請件数	1件	国の予算スケジュールにより国庫補助金の交付申請を行う。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	今年度は、調査工事の成果に基づいて、保存修理工事に着手する。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-3

施策名		文化・芸術活動の活性化						点検評価表 作成課	文化振興課
施策の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充する。 ○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行う。 ○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進める。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図る。 							
施策に関連する 主な取組		○文化・芸術活動の推進			○地域ゆかりの文化資源の活用				
		○地域における文化活動の連携と推進							
		○文化団体の育成							
		○美術品の収蔵・展示公開							
指標名		文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	文化・芸術事業の参加者のアンケートにおいて「良い」と回答した割合	80%	97%	88%	94%	97%	99%	99%	
		現状値 (平成23年度)		80%	→	目標値 (平成29年度)		85%以上	

平成29年度重点施策	○子ども芸術文化推進事業	
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○文化・芸術活動の推進 ・アーティスト倶楽部を開催し、子どもたちが様々な芸術や文化活動に触れる機会を提供した。 ・文化芸術による子どもの育成事業を開催し、良質な文化・芸術に触れる機会を提供した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における文化活動の連携と推進 ・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展を開催した。 ・NPO法人市民シアター・エフと協働し、優秀映画鑑賞推進事業を開催した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭で、文化遺産コンサートを開催した。 ・企画展「懐かしの深谷&新収蔵美術品展」と題し、今では語られる機会は少ないが重要な活躍をした人たちの作品等の展示会を開催した。 	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	より優れた文化・芸術事業の提供を行うため、多様で良質な文化・芸術事業の企画が必要である。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに対して音楽ワークショップ、茶道体験などを行い、良質な文化・芸術に触れる機会を提供でき、参加者の満足度も高かった。 ・深谷にゆかりのある偉人を紹介した企画展を開催し、多くの来場者と高評価を得た。 ・清風亭で文化遺産コンサートを開催し、参加者の満足度の高いイベントを提供できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト倶楽部は、様々な体験をすることができる良い事業である。 ・文化財を保存するのみでなく、事業の会場として活用するなど良質な取組が企画されている。今後も継続してほしい。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	子ども芸術文化推進事業		担当課	文化振興課
概要	「アーティスト倶楽部」を開催し、子どもたちがさまざまな芸術や文化に触れ、実際に体験することで創造性を豊かにし、柔軟な発想を育む機会を提供する。			
平成29年度 の実績	・小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術に触れる機会を提供した。			
	【アーティスト倶楽部】			
	6月3日	「太鼓を演奏しよう！」	南公民館	15名
	7月1日	「役者になろう！」	深谷公民館	13名
	8月6日	「ダンスをおどろう！」	深谷公民館	8名
	10月29日	「ピザ焼き体験！」	ふかや緑の王国	14名
	12月17日	「音楽ワークショップ」	清風亭	11名
	1月20日	「茶道を学ぼう！」	深谷城址公園内掃部寮	8名
			実績値	指標別コメント
	アーティスト倶楽部の実施回数		6回	前年度と同様の回数を実施した。
	アーティスト倶楽部の延べ参加者数		69人	参加者数は前年度より減少した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	さまざまな文化・芸術に触れることができた。より効果の高い事業内容で実施できるよう検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備		点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課			
施策の方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。						
施策に関連する 主な取組		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成						
指標名		社会体育施設における利用者数						
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名	357,664名	418,568名	532,330名	443,284名	455,795名
		現状値 (平成27年度)		374,462名	➡	目標値 (平成29年度)		380,000名

平成29年度 重点施策	○市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化 ○総合体育館整備管理事業 ○深谷アスリートクラブ事業	
平成29年度 実績	○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し 【整備・改修等】 ・総合体育館の中央監視装置更新工事、卓球台購入、中長期保全計画策定。 ・グラウンド用のスポーツトラクターの修繕。 ・川本天神テニスコート照明修繕、トイレ改修。 ・岡部中央砂利駐車場修繕 等。 【利用者】 ・平成29年度利用者実績 455,795名(H28実績 443,284名) (総合体育館:303,106名、市民体育館:38,307名、B&G:17,568名、市営グラウンド:96,814名) ○指導者の養成 ・スポーツ少年団認定員研修会42名、認定員養成講習会39名が参加した。 ・深谷アスリートクラブ事業(小学校体育授業へ大学生等指導者派遣、スポーツ教室の開催及び支援、大会・イベントの開催)の実施。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	経年による施設の老朽化が進んでおり、毎年いずれかの施設に改修を要する状況となっている。	
評価コメント	・施設の修繕箇所数は年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで適切に対応できた。 ・市民体育館のアリーナ床面にひび割れや欠損など危険な状況が多数発見され、激しい運動を伴う活動を利用停止した。迅速な対応ができた。 ・成果指標である年間利用者数は、前年度比微増で目標値は超えることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標である年間利用者数は、目標値を大幅に上回っており、大変良い状況である。利用者の安全に十分配慮した施設整備を継続してほしい。 ・市民がスポーツ・レクリエーション活動を行える施設が充実している。
-------	---

重点施策評価表

重点施策名	市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	委託業者(シルバー人材センター)による毎月2回の全市営グラウンド(7か所)の確認・清掃業務及び市職員による毎朝の市民体育館の点検・巡視を実施する。			
平成29年度 の実績	【市営グラウンド確認管理業務委託】 ・受託者 深谷市シルバー人材センター ・対象施設 7か所(中瀬グラウンド、岡部中央グラウンド、岡部東グラウンド、川本天神グラウンド、川本グラウンド・ゴルフ場、植松グラウンド、上本田グラウンド)			
	指標名		実績値	指標別コメント
	市営グラウンド確認回数		24回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。
	職員による市民体育館の点検・巡視		勤務時毎日(242回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	業務委託での市営グラウンド(7か所)の定期的な点検業務を実施により細部にわたる状況確認を行い事故は0件であった。市民体育館については、アリーナ床面のひび割れなど危険な状況が確認されたため激しい運動を行うものの利用を停止した。利用制限により利用者数は減少したが事故を未然に防ぐことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	総合体育館整備管理事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興
概要	総合体育館(深谷ビッグタートル)施設利用者の安全性及び快適性を確保するため、体育館諸施設・設備を対象として、適正な修繕及び備品の管理を行うことで、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の拠点となる施設の整備・充実を目指すものである。			
平成29年度 の実績	【深谷市総合体育館指定管理業務委託】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・受託者 ふかや体育施設管理グループ ・深谷市都市公園、花園農業者トレーニングセンターとともに指定管理者による管理を行っている。 ・平成29年度から新たに5年間の指定管理を更新した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	施設管理上の事故件数	0件	施設設備の不備による事故は発生しなかった。	
年間利用者数	303,106人	前年度より増加しており過去2番目の利用者数となった。(最多は平成20年度(埼玉インターハイ開催年度))		
年間利用料収入	45,493,260円	前年度より若干減少したが、高額収入を維持している。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	指定管理者がスポーツ・レクリエーション活動団体等と調整を図り、滞りなく運営されている。 2020年東京オリンピック・パラリンピックのバレーボール競技キャンプを契機として設備の充実を図る必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	深谷アスリートクラブ事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて小・中学生に対しスポーツに精通した指導者を派遣することにより、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。平成27年度に地方創生先行型交付金を受けて開始した事業である。			
平成29年度 の実績	○小学校体育授業指導者派遣 全小学校(19校)へ大学生等を指導者として派遣し、水泳・陸上・器械運動の3種目を3日間ずつ指導した。			
	○多種スポーツ教室(委託) 小学生(ミニバス、バレー、ラグビー、ソフトテニス)、中学生(バレー、バスケット、卓球)			
	○教室等開催支援 サマーライアルカレッジ、ラグビー教室、ジュニアスキー教室、市民ランニング教室			
	○大会等開催 ジュニアバレーボール大会、ジュニアスポーツフェスタ			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小学校体育授業指導者派遣回数	171回	小学校体育授業で水泳・陸上・器械運動へ指導者派遣を行い、技術力向上を図った。	
	ふっかちゃんジュニアスポーツフェスタ実施競技数	16種目	小学校低学年を中心に色々なスポーツを体験できるイベントを開催した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	小学校体育授業指導者派遣においては、教員志望のスポーツ専攻大学生を中心として派遣し、深谷市を知ってもらい深谷の教育をPRすることで深谷市を希望する教員となってもらえるきっかけづくりを行った。また、各種教室や体験イベントを開催することにより、指導方法の研究や指導の質の向上を図った。東京オリンピック・パラリンピックを契機として事業を継続したい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化		点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課				
施策の方向性		○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化							
指標名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化							
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	体育協会、レクリエーション協会 及びスポーツ少年団並びに市 が主催した大会・教室の年間参 加者数	28,322名	30,688名	33,584名	27,464名	28,893名	33,497名	35,474名	
		現状値 (平成27年度)		21,702名	➡		目標値 (平成29年度)		23,000名

平成29年度 重点施策	○スポーツ教室・イベント開催事業 ○ウォーキング推進事業 ○ラグビーワールドカップ2019関連事業	
平成29年度 実績	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・第12回ふかやシティハーフマラソンを開催し、5,137名が参加した。 ・アスリートクラブ事業によるジュニアスポーツフェスタやふっかちゃんカップジュニアバレーボール大会、全国高校野球大会と平昌パラリンピックパブリックビューイングなど多くの事業を開催した。 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の加盟団体が主催する各種大会・教室等の広報支援として広報ふかや等への掲載を行った。 ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・スポーツ推進委員と協力して、ふっかちゃん体操制作・障害者スポーツ・軽スポーツに取り組んだ。 ○ウォーキング推進事業 ・市民の更なる健康増進のため深谷市歩け歩け協会との市民協働事業により、ウォーキングイベントの開催と常設コースの設置を行った。	
総合評価	S	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成する必要がある。 がんばる地元アスリートを支える体制づくりも重要である。	
評価コメント	・成果指標である年間参加者数は、前年度に比べて大幅に増加した。 ・第12回ふかやシティハーフマラソンを盛大に開催することができた。 ・ジュニアスポーツフェスタなどの多くの事業を開催し、年間参加者数を増やすとともに、市民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実を図ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。	

意見・提言	・成果指標である大会・教室の年間参加者数は、目標値を上回っており、大変充実している。 ・多様な人々を対象に新しいスポーツの企画を開催し、労をいとわずに取り組むことで良い成果が表れている。
-------	--

重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を提供し、生涯を通して健康的な生活を営むことを目的として、ふかやシティハーフマラソンを始めとする各種大会や教室開催支援を行う。			
平成29年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回ふかやシティハーフマラソン参加者数 5,137名 ・鴨んバレー大会、体力測定、がんばルーム(子どもスポーツ支援)、ランニング教室、ジュニアスポーツフェスタの参加者数 1,333名 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	第12回ふかやシティハーフマラソンに参加したボランティアの人数	1,010名	若干の減少となったが1,000名を超える方々に協力いただけた。	
	ジュニアスポーツフェスタ参加人数	1,000名	小学校低学年を中心に16種目のスポーツを一度に体験できるイベントを開催した。	
	市民ランニング教室	61名	マラソン大会参加、また健康増進のため、初心者を対象とした教室を開催した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	第12回ふかやシティハーフマラソンは、5,000名を超える参加があり、深谷市体育協会加盟団体をはじめとする1,000名を超える市民ボランティアにより盛大に開催できた。また、スポーツ未経験の子ども達に色々なスポーツを体験してもらったジュニアスポーツフェスタを実施し、各団体等の協力により盛大に開催できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	ウォーキング推進事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	ウォーキング団体との協働により常設ウォーキングコースの設定及びウォーキングイベントを開催する事業である。また小山川はつらつプロジェクト事業としてふるさと創造資金活用事業となっている。		
平成29年度 の実績	○市民協働事業者 深谷市歩け歩け協会		
	○ふっかちゃん市民わくわくウォーキング(ウォーキングイベント)		
	・1回目 10月15日(日) 68名 城址公園～煉瓦史料館～誠之堂・清風亭～城址公園		
	・2回目 3月25日(日) 77名 川本公民館～六堰重忠橋～畠山重忠史跡公園～藤田雄山生家～川本公民館		
担当課 評価	○常設コースマップ 2コース(旧中山道東・旧中山道西)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ウォーキングイベント参加者数	145名	ウォーキングイベントを秋と春とで2回開催した。
	常設ウォーキングコース数	2コース	歩け歩け協会と協力し順次常設コースを増やしていく。
評価区分	評価コメント		
1	市民協働事業者である深谷市歩け歩け協会と協力して事業を実施することができた。イベントコース、常設コースともに深谷市歩け歩け協会に試行の設定いただいた。市民の健康増進のために次年度以降も引き続き実施していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	ラグビーワールドカップ2019関連事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	ラグビーが盛んである本市は、ラグビーワールドカップ2019試合会場となった熊谷市の隣接市であり、市を挙げて大会を盛り上げる事業である。平成28年度に市民協働事業として開始した。		
平成29年度 の実績	○深谷ラグビーフェスティバルの開催。		
	・前年度は市民協働事業としてNPO法人深谷スポーツクラブと共に実施したが、今年度はこれを拡充し同クラブを含む深谷市ラグビーフットボール協会との協働により開催した。		
	・イベント内のラグビー教室として、深谷高校ラグビー部に協力いただいた。		
	指標名	実績値	指標別コメント
深谷ラグビーフェスティバル参加人数	600人	市内小学校へイベント内のタグラグビー交流会へ参加を要請し、多くの学校に協力いただいた。	
評価区分	評価コメント		
1	ラグビーワールドカップ日本大会が開催される2019年まで継続していきたい。市ラグビーフットボール協会や熊谷市等と協力して取り組んでいきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成30年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成29年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、1施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）と、24施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価することができました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者に御意見及び御提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

根岸 雅子	深谷市社会教育委員
高橋 丘	埼玉工業大学非常勤講師

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者の御意見及び御提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I－(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	A	子育てひろばの満足度が、平成26年度から連続で100%となったことが評価されました。幼児教育の充実に向けて幼稚園の体制を整えるよう、提言を受けました。	4
I－(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	中学生補習学習の工夫を凝らした継続的な取組が評価されました。全体的な学力の発展につなげるための更なる充実について提言を受けました。	8
I－(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	英語教育に積極的に取り組んだ実績が評価されました。英語教育の教科化のスムーズな導入について提言を受けました。	12
I－(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	ICT機器の早期導入と高い整備率が評価されました。情報モラルに係る指導について提言を受けました。	16
I－(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	小学校から中学校への接続を考えたキャリア教育の円滑な運営が評価されました。中学校と高校の連携について提言を受けました。	18
I－(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	特別支援教育における教員の指導力向上や研修の充実について提言を受けました。	24
II－(1) まごころと思いをやりをはぐくむ教育の推進	A	「まごころ訪問」における子供と高齢者が交流する取組が評価されました。「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」の活動について提言を受けました。	28
II－(2) いじめ・不登校の防止	A	いじめの初期対応や学校での居場所づくり、ネットトラブルの防止について提言を受けました。	32
II－(3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力行為の減少に対する取組及びスクールライフサポーターの導入が評価されました。民生委員や主任児童委員との連携について提言を受けました。	36
II－(4) 人権を尊重した教育の推進	A	児童虐待防止教育における研修の充実が評価されました。関係機関との連携及び情報モラルの教育について提言を受けました。	40
II－(5) 健康の保持増進	A	全小・中学校が自校式給食となったことが評価されました。地域性を生かした学校給食について提言を受けました。	44
II－(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	学校体育及び運動部活動における外部指導者の活用が評価されました。子供の体力向上について提言を受けました。	46

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	
Ⅲ－（１） 信頼される教職員の育成	A	教職員の能力の向上及び人事評価制度の効果的な運用について提言を受けました。	50
Ⅲ－（２） 子どもたちの安心・安全の確保	A	子供たちの安全確保のための、避難訓練や地域との連携について提言を受けました。	54
Ⅲ－（３） 学習環境の整備・充実	A	学校施設や設備の充実及び洋式トイレの整備率の高さが評価されました。	58
Ⅳ－（１） 家庭の教育力の向上	A	家庭教育だより「まごころ」の自治会回覧が評価されました。家庭教育学級の充実について提言を受けました。	60
Ⅳ－（２） 地域の教育力の向上	A	がんばル〜ムにおける子供の居場所づくりが評価されました。がんばル〜ムの継続について提言を受けました。	62
Ⅴ－（１） 学習機会の提供と学習活動の支援	A	パソコン講習会及び市民大学の運営が評価されました。市民大学と子ども大学の連携について提言を受けました。	66
Ⅴ－（２） 活動施設の整備・充実	A	整備された公民館が多いことが評価されました。公民館の積極的な活用や施設の充実について提言を受けました。	68
Ⅴ－（３） 図書館の整備・充実	A	ボランティアと協力した様々な読み聞かせ活動が評価されました。図書館の空間づくりについて提言を受けました。	70
Ⅵ－（１） 渋沢栄一翁の顕彰	A	公共交通機関との連携による利便性の向上及びスマートフォン用アプリの活用による深谷市のPRについて提言を受けました。	72
Ⅵ－（２） 伝統文化の保存・継承と活用	A	文化財の保存整備による伝統文化の継承や所有者の維持管理に係る負担軽減について提言を受けました。	76
Ⅵ－（３） 文化・芸術活動の活性化	A	アーティスト倶楽部の取組及び文化財の活用方法が評価されました。	80
Ⅶ－（１） スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	A	社会体育施設の年間利用者数の増加及びスポーツ・レクリエーション施設の充実が評価されました。利用者の安全に配慮した施設整備について提言を受けました。	82
Ⅶ－（２） スポーツ・レクリエーション活動の活性化	S	大会・教室の年間参加者数の増加及び多様なスポーツ企画の開催が評価されました。	86

平成 30 年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発 行 平成 30 年 11 月

編 集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 1 7 - 3

TEL 0 4 8 - 5 7 4 - 5 8 1 1

FAX 0 4 8 - 5 7 4 - 1 7 4 4

